

合併・政令指定都市に関する 市民意識調査報告書

平成22年2月
松戸市

目次

I	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の設計	1
(3)	回収状況	2
(4)	標本誤差	4
(5)	報告書の見方	4
II	調査結果の分析	5
1.	合併・政令指定都市の関心度・理解度	5
(1)	国が進めている地方分権の動きへの関心度	6
(2)	アンケート調査に添付したパンフレット内容の理解度	8
2.	松戸市の合併・政令指定都市移行への認識	11
(1)	政令指定都市を目指すことへの賛否	12
(2)	政令指定都市へ移行する際に期待すること	15
(3)	政令指定都市へ移行する際に心配すること	18
3.	合併パターン・相手に関する態度	21
(1)	松戸市の3つのケースによる合併の賛否	22
(2)	合併しても良いと思う市	27
(3)	合併相手を考える際に重視すること	30
4.	合併・政令指定都市に関する自由意見	33
III	回答者の属性	34
1.	市政に対する態度	34
(1)	市政への関心度	34
(2)	市政情報の入手方法	35
(3)	広報まつど「合併・政令指定都市に関する特集」の認知度	37
2.	基本的な属性	39
(1)	性別	39
(2)	年齢	39
(3)	居住パターン	40
(4)	居住年数	41
(5)	居住地域	42
(6)	職業	42
(7)	定住意向	43
IV	資料	46
1.	調査票	46
2.	パンフレット	54

I 調査の概要

(1) 調査の目的

松戸市を含めた東葛飾・葛南地域は、平成 18 年の「千葉県市町村合併推進構想」において、「更なるステップアップが望まれる地域」、つまり将来的に政令指定都市移行について考えていく必要がある地域に指定された。そのため、松戸市では、本圏域における立地位置の関係から、北側の東葛広域行政連絡協議会（松戸市、柏市、野田市、我孫子市、流山市、鎌ヶ谷市）の政令指定都市問題研究会と松戸市・柏市政令指定都市研究会、南側の東葛飾・葛南地域 4 市政令指定都市研究会（松戸市、市川市、船橋市、鎌ヶ谷市）において、3 つの調査研究を行ってきた。

本調査は、市民の合併や政令指定都市に関する意向を把握し、本市が政策判断を行う際の資料として活用することを目的に実施したものである。

(2) 調査の設計

(1) 調査対象 3,000 人（松戸市に居住する 15 歳以上の男女を性別、年齢、支所管区による層化無作為抽出 母数 413,360 平成 21 年 9 月 17 日現在の住民基本台帳による）

(2) 調査方法 郵送によるアンケート調査

(3) 調査期間 平成 21 年 10 月 6 日～10 月 22 日

(4) 調査の枠組み

【被説明変数】

1. 合併・政令指定都市の関心度・理解度	問 1. 国が進めている地方分権への関心度
	問 2. アンケート調査に添付したパンフレットの内容の理解度 ア. 国が「平成の大合併」を進める理由 イ. 合併・政令指定都市移行に期待すること ウ. 合併・政令指定都市移行に懸念されること エ. 松戸市が抱える将来の課題 オ. 合併・政令指定都市移行について調査・研究する理由
2. 松戸市の合併・政令指定都市移行への認識	問 3. 松戸市が合併・政令指定都市を目指すことへの賛否
	問 4. 合併・政令指定都市移行に期待すること
	問 5. 合併・政令指定都市移行に心配すること
3. 合併パターン・相手に関する態度	問 6. 松戸市の考えられる合併パターンである「東葛」・「葛南」・「東葛・葛南」の 3 つのケース、それぞれの賛否
	問 7. 合併しても良いと思う市（一番目と二番目に分けて）
	問 8. 問 7 の合併相手を考える際に重視する点
4. 合併・政令指定都市に関する自由意見	問 9. 自由記入

【説明変数】

市政に対する態度	問 1 0 . 市政への関心度 問 1 1 . 市政情報の入手方法 問 1 2 . 広報まつど掲載記事の認知度
基本属性	F 1 . 性別 F 2 . 年齢 F 3 . 居住パターン F 4 . 居住年数 F 5 . 居住地域 F 6 . 職業 F 7 . 定住意向

(3) 回収状況

- (1) 有効配付数 3,000 件
(2) 回収数 1,479 件
(3) 回収率 49.3%

【性別の発送数と回収数、回収率】

性別	発送数	回収数	回収率(%)
女性	1,488	757	50.8
男性	1,512	682	45.1
無回答	-	40	-
計	3,000	1,479	49.3

【年齢別の発送数と回収数、回収率】

年齢別	発送数	回収数	回収率(%)
15～19 歳	135	46	34.0
20～29 歳	434	147	33.8
30～39 歳	581	243	41.8
40～49 歳	507	214	42.2
50～59 歳	407	218	53.6
60～69 歳	520	333	64.0
70 歳以上	416	239	57.5
無回答	-	39	-
計	3,000	1,479	49.3

【地域別の発送数と回収数、回収率】

地域	発送数	回収数	回収率(%)
本庁	803	388	48.3
常盤平	565	296	52.4
小金	260	117	45.0
小金原	196	94	48.0
六実	191	70	36.6
馬橋	268	133	49.6
新松戸	349	155	44.4
矢切	154	58	37.7
東部	214	109	50.9
無回答	-	59	-
計	3,000	1,479	49.3

(4) 標本誤差

今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体(松戸市に住む 15 歳以上の男女)の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の <算出式> と <早見表> を次に示す。

統計学上の標本誤差は、比率算出の基数(回答サンプル数)及び 回答の比率によって誤差幅が異なる。今回調査の誤差幅は ± 2.54%以内となる。

< 標本誤差算出式 >

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

N = 母集団数(松戸市の 15 歳以上の男女)
n = 比率算出の基数(回答サンプル数)
p = 回答の比率(0 ≤ p ≤ 1)

< 誤差早見表 >

回答比率(p) 標本数(n)	5%又は 95%程度	10%又は 90%程度	20%又は 80%程度	30%又は 70%程度	40%又は 60%程度	50%程度
100	±4.27%	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%
300	±2.47%	±3.39%	±4.53%	±5.18%	±5.54%	±5.66%
500	±1.91%	±2.63%	±3.50%	±4.01%	±4.29%	±4.38%
1,000	±1.35%	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.03%	±3.10%
1,479	±1.11%	±1.53%	±2.04%	±2.33%	±2.49%	±2.54%
5,000	±0.60%	±0.83%	±1.10%	±1.26%	±1.35%	±1.38%
10,000	±0.42%	±0.58%	0.78%	±0.89%	±0.95%	±0.97%

この表の計算式の信頼度は 95%である。

(5) 報告書の見方

- (1) 図表中の n は、回答者総数のことである。
- (2) 図表中の構成比(%)は、複数回答の場合はもちろんのこと、単数回答の場合でも小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100.0%にはならない。
- (3) 統計学上 50 サンプル以下の集計(回答者数)は信憑性が低い。そのため、一部を除きクロス集計については、50 サンプル以上を記述(コメント)の対象としている。
- (4) 属性別(クロス集計)の記述では、原則として全体の集計結果と比較し、特徴又は傾向がみられるものをコメントの対象としている。
- (5) 図表については、クロス集計上の表側の「無回答」は省略している。そのため、各項目の合計数が全体と一致しない。また、設問などの表現は、一部省略している場合がある。

II 調査結果の分析

1. 合併・政令指定都市の関心度・理解度

合併や政令指定都市移行への考えに影響を及ぼすと思われる、地方分権などの国の動きへの関心や、そうした問題への理解を測ることを目的とする。

構成

- (1) 国が進めている地方分権の動きへの関心度
- (2) アンケート調査に添付したパンフレットの内容の理解度
 - ア. 国が「平成の大合併」を進める理由
 - イ. 合併・政令指定都市移行に期待すること
 - ウ. 合併・政令指定都市移行に懸念されること
 - エ. 松戸市が抱える将来の課題
 - オ. 合併・政令指定都市移行について調査・研究する理由

結果の概要

- (1) 国が進めている地方分権の動きへの関心度
 - ・国が進めている地方分権の動きについては、60%以上の人は関心があるとの回答があった。
 - ・普段からの市政への関心度(問 10)や、広報まつど「合併・政令指定都市に関する特集」の認知度(問 12)が高いほど、国が進める地方分権の動きへの関心度(問 1)が高いことがわかった。広報まつどの啓発記事を読んだ人ほど、国が進める地方分権の動きへの関心が高い傾向が見られた。
- (2) アンケート調査に添付したパンフレットの内容の理解度
 - ・「よく理解できた」と「ある程度理解できた」を合わせた割合は、全ての項目で過半数を超えていた。「少しは理解できた」を含めると 85%以上の人理解を示しており、難解な内容が多いと思われるパンフレットの内容としては、一定の理解が得られた。
 - ・国が進めている地方分権の動きへの関心度(問 1)や市政への関心度(問 10)が高いグループほど、パンフレットの内容について理解が高い傾向が見られた。
 - ・今後、本市の将来に関して具体的に合併・政令指定都市問題への理解を深めるには、まず市政や国の動きなどの情報を提供して、普段から関心を高めておくことが有効であることが確認できた。

(1) 国が進めている地方分権の動きへの関心度

国主導のまちづくりから、地域が主導のまちづくりへと地方分権が進展しており、国は地方分権を進めるため、平成 11 年より「平成の大合併」と称して市町村合併を推進している。「平成の大合併」により、多くの市町村が合併し、全国で約 3,200 あった市町村数が約 1,700 まで減少した。こうした状況についての市民の関心度を測るため、以下の問いを設けた。

問1 あなたは、「平成の大合併」など、国が進めている地方分権の動きについて、関心がありますか。(1つに)	
1. 大いに関心がある(12.4%)	2. ある程度関心がある(49.0%)
3. どちらともいえない(16.2%)	4. あまり関心はない(11.9%)
5. 全く関心はない(3.1%)	6. わからない(2.0%)

その結果、「大いに関心がある」(12.4%)と「ある程度関心がある」(49.0%)を合わせると、61.4%を占めるという結果であった。また、「どちらともいえない」は 16.2%で、「あまり関心はない」、「全く関心はない」はそれぞれ 11.9%、3.1%となっている。「わからない」は 2.0%であった。

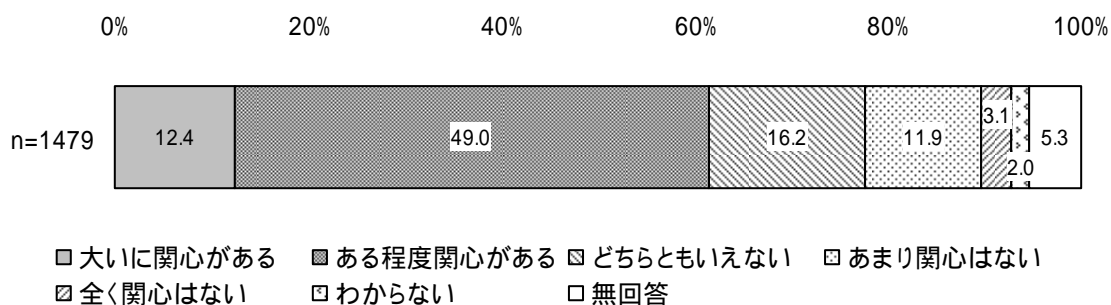


図1 国が進めている地方分権の動きへの関心度

【属性別の傾向】

「大いに関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合の属性別の傾向を見た。

性別

・性別では「男性」(70.2%)が「女性」(54.4%)を 15.8%上回っている。

年齢

・年齢別では、年齢が高くなるほど、関心度が高くなる傾向を示している。具体的な数値では、「15歳～19歳」が 39.1%で、「20～29歳」(53.1%)、「30～39歳」(58.9%)、「40～49歳」(58.9%)、「50～59歳」(60.5%)、「50～69歳」(69.1%)となっている。「70歳以上」は 68.6%であった。

居住地域

・居住地域別では、「小金」(74.4%)と「小金原」(68.1%)が高く、「松戸」(51.5%)、「矢切」(58.6%)、「古ヶ崎」(58.5%)が低かった。

職業

・職業別では、「公務員」(76.9%)の関心度が高く、「学生」(44.9%)が低かった。

定住意向

・定住意向の違いによる一定の傾向は見られなかった。

【関心度の高低による分類】

国が進めている地方分権の動きへの関心度(問 1)と市政への関心度(問 10)において、「大いに関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせたグループを「関心度が高い」とし、「あまり関心はない」、「全く関心はない」、「わからない」を合わせたグループを「関心度が低い」として、関心度の高いグループと低いグループの2つに分類してクロス集計に使用した。

【市政への関心度(問 10)とのクロス集計】

市政への関心度(問 10)とのクロス集計では、市政への関心度が高いグループの 72.4%は地方分権への動きへの関心度が高く、市政への関心度が低いグループは、地方分権の動きへの関心度が 36.3%と低い結果となった。

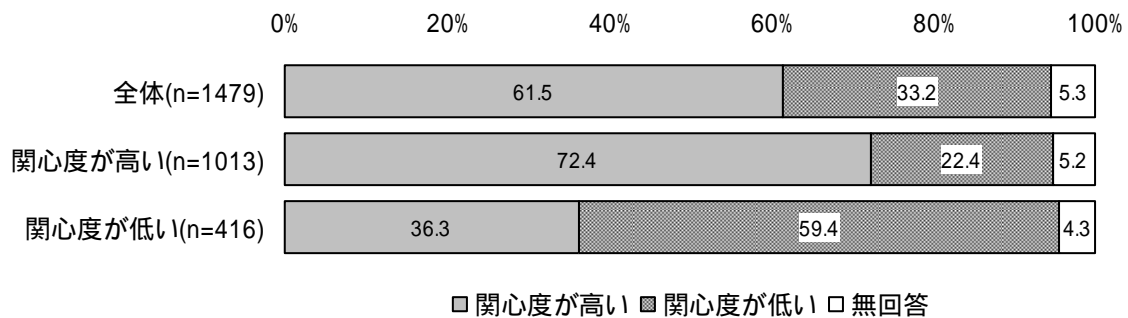


図2 問10×国が進めている地方分権の動きへの関心度

【広報まつど掲載記事の認知度(問 12)とのクロス集計】

広報まつど「合併・政令指定都市に関する特集」の認知度(問 12)とのクロス集計では、広報まつどの掲載記事の内容を読んだ人の 81.3%が、地方分権への動きに関心が高いことから、関心度を高めるには広報まつどの掲載記事での情報提供が有効であることが確認できた。

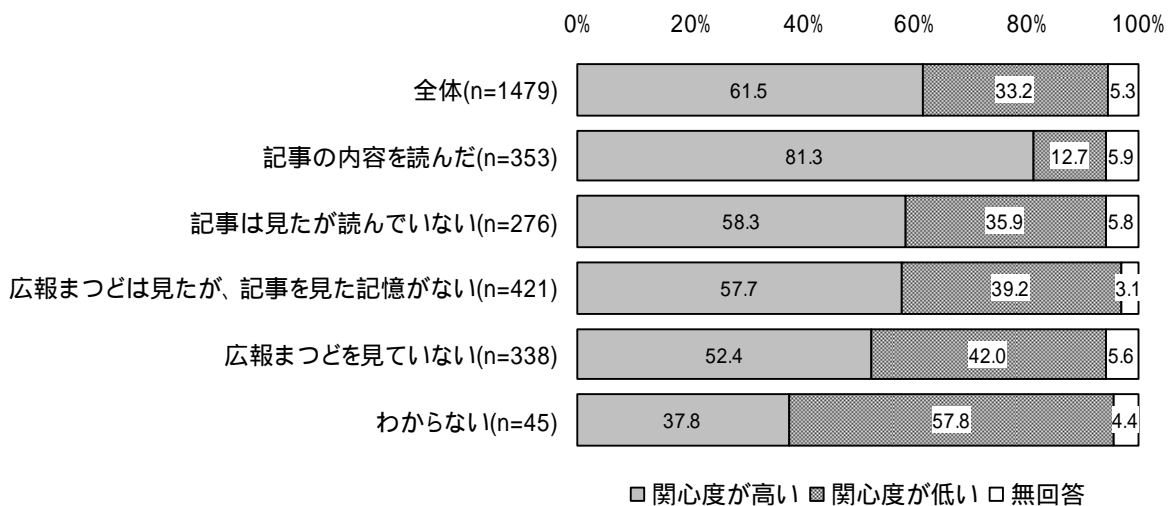


図3 問12×国が進めている地方分権の動きへの関心度

普段からの市政への関心度(問 10)が高い人や、広報まつど「合併・政令指定都市に関する特集」の認知度(問 12)が高い人ほど、地方分権の動きへの関心度(問 1)が高いことがわかった。

(2) アンケート調査に添付したパンフレット内容の理解度

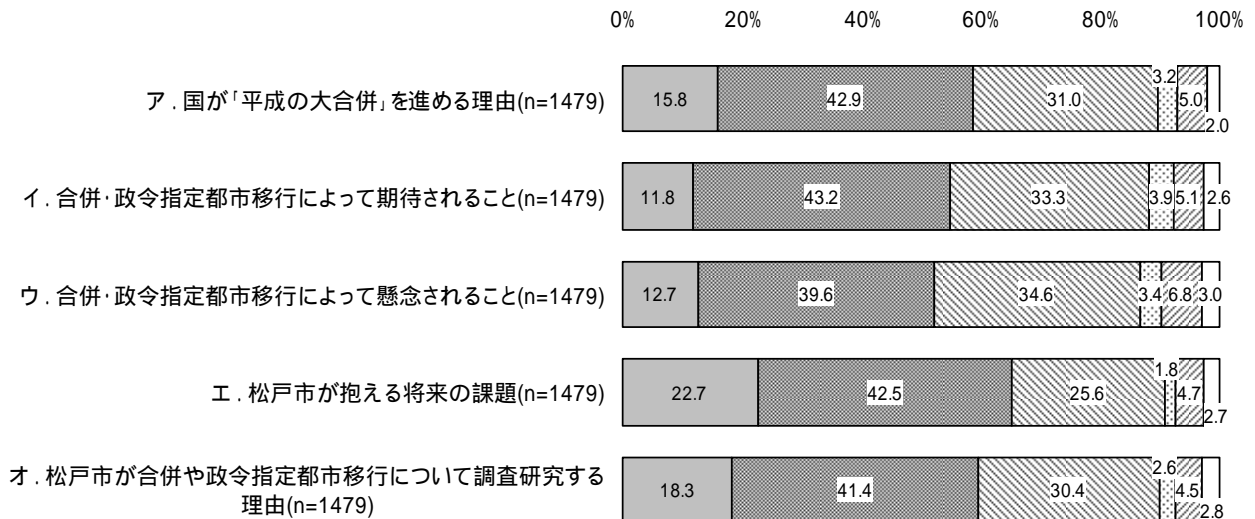
今般のアンケート調査を実施するにあたり、合併・政令指定都市に関する基本的な事項や、本市が行ってきた調査研究の概要をまとめたパンフレットを同封した。アンケートを回答する前に、パンフレットの内容を一読したうえでの回答をお願いした。パンフレットの内容についての理解度をきくことで、本パンフレットの評価をするものとし、以下の問いを設けた。

問2 パンフレットでは松戸市が行ってきた合併や政令指定都市移行の調査研究について説明していますが、内容はわかりましたでしょうか。次のア～オの項目ごとにお答えください。(それぞれの番号1つに)

	よく理解できた	ある程度理解できた	少しは理解できた	全く理解できなかった	わからない
ア．国が「平成の大合併」を進める理由	1 (15.8%)	2 (42.9%)	3 (31.0%)	4 (3.2%)	5 (5.0%)
イ．合併・政令指定都市移行によって期待されること	1 (11.8%)	2 (43.2%)	3 (33.3%)	4 (3.9%)	5 (5.1%)
ウ．合併・政令指定都市移行によって懸念されること	1 (12.7%)	2 (39.6%)	3 (34.6%)	4 (3.4%)	5 (6.8%)
エ．松戸市が抱える将来の課題	1 (22.7%)	2 (42.5%)	3 (25.6%)	4 (1.8%)	5 (4.7%)
オ．松戸市が合併や政令指定都市移行について調査研究する理由	1 (18.3%)	2 (41.4%)	3 (30.4%)	4 (2.6%)	5 (4.5%)

パンフレット内容の理解度については、「よく理解できた」と「ある程度理解できた」を合わせた割合は、全ての項目で過半数を超えていた。「少しは理解できた」を含めると、85%以上が理解を示しており、難解な内容が多いと思われるパンフレットの内容としては、一定の理解が得られたと考える。

「よく理解できた」と「ある程度理解できた」を合わせた割合をみると、「松戸市が抱える将来の課題」が65.2%で高く、「松戸市が合併や政令指定都市に移行について調査研究する」(59.7%)、「国が『平成の大合併』を進める理由について」(58.7%)、「合併・政令指定都市移行によって期待されること」(55.0%)、「合併・政令指定都市移行によって懸念されること」(52.3%)の順となっている。



□よく理解できた ■ある程度理解できた ▨少しは理解できた □全く理解できなかった ▨わからない □無回答

図4 パンフレット内容の理解度

【理解度の総合評価】

パンフレット全体の理解度について、ア～オの選択肢の「よく理解できた」を3点、「ある程度理解できた」を2点、「少しは理解できた」を1点、「全く理解できなかった」を0点、「わからない」を無回答とみなし、ア～オの5項目の点数を合計して、その点数が10点以上のグループを「理解度の高い」(41.9%)、10点未満のグループを「理解度の低い」(54.3%)と理解度の高低で2つのグループに分類した。

なお、ア～オの各項目間には、以下の表のように相関が見られた。

表1 ア～オの回答の相関係数

	ア	イ	ウ	エ	オ
ア	-	0.71	0.64	0.60	0.66
イ	0.71	-	0.75	0.64	0.68
ウ	0.64	0.75	-	0.67	0.73
エ	0.60	0.64	0.67	-	0.73
オ	0.66	0.68	0.73	0.73	-

【地方分権への動きへの関心度(問1)とのクロス集計】

国が進めている地方分権の動きへの関心度(問1)とのクロス集計では、パンフレット内容の理解度が高いグループについて、地方分権の動きへの関心度が高いグループでは53.8%、関心度が低いグループでは21.6%と大きな差が見られた。

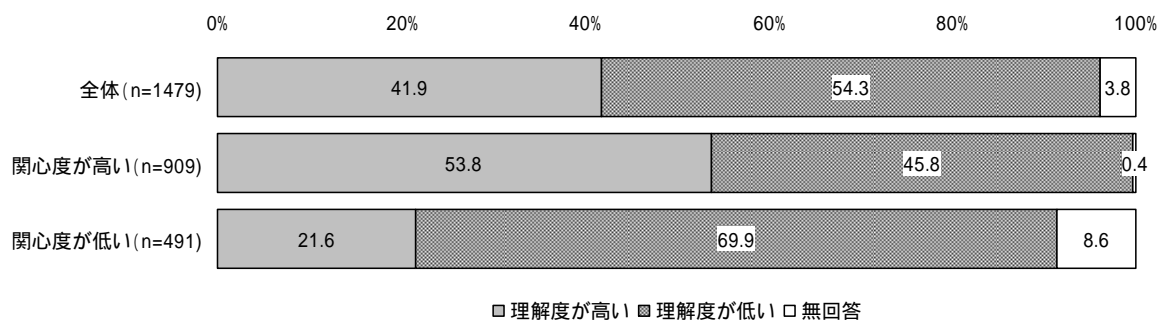


図5 問1(総合)×パンフレット内容の理解度(総合評価)

【市政への関心度(問10)とのクロス集計】

市政への関心度(問10)とのクロス集計では、パンフレット内容の理解度が高いグループについて、地方分権の動きへの関心度が高いグループでは47.6%、関心度が低いグループでは29.1%と理解度に差が見られた。

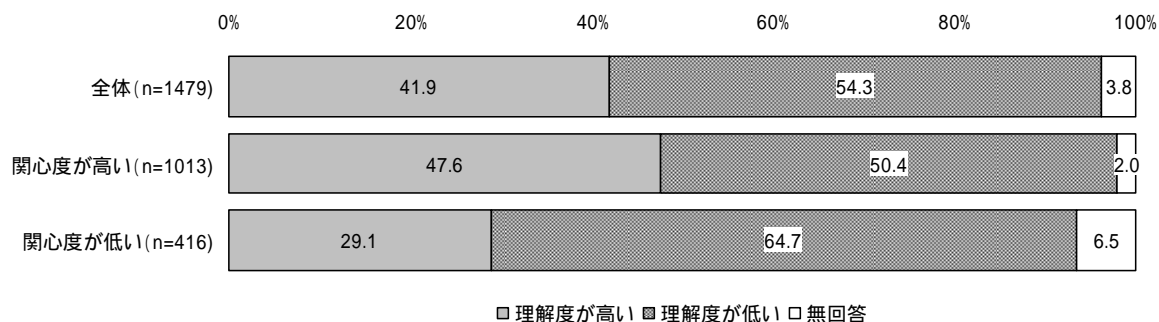


図6 問10(総合)×パンフレット内容の理解度(総合評価)

地方分権の動きへの関心度(問1)や市政への関心度(問10)が高いことが、パンフレットの内容についても、理解度が高くなる傾向にある。今後、本市の将来に関して具体的に合併・政令指定都市問題への理解を深めるには、まず市政や国の動きなど情報提供して関心を持ってもらうことが有効であることが確認できた。

2. 松戸市の合併・政令指定都市移行への認識

松戸市が合併し、政令指定都市を目指すことについての市民の賛否と、仮に本市が政令指定都市に移行する場合に期待することや心配なことについての考えを把握することを目的とする。

構成

- (1) 松戸市が合併・政令指定都市を目指すことへの賛否
- (2) 合併・政令指定都市移行に期待すること
- (3) 合併・政令指定都市移行に心配すること

結果の概要

- (1) 松戸市が合併・政令指定都市を目指すことへの賛否
 - ・政令指定都市を目指すことについては、「賛成」が23.5%、「どちらかといえば賛成」が29.3%で、両者を合わせた賛成派は52.8%と過半数を超えていた。「どちらかといえば反対」は8.0%、「反対」は5.4%、両者を合わせた反対派は13.4%であった。
 - ・賛成派について居住地域別では、「小金」(65.8%)、「馬橋」(59.4%)が高く、「矢切」(41.3%)、「松戸」(45.0%)、「明」(49.7%)が低かった。
 - ・地方分権の動きへの関心度(問1)とのクロス集計では、賛成派は、地方分権の動きへの関心度が高い人で67.1%、関心度が低い人では24.6%と関心度による大きな違いが見られた。
 - ・市政への関心度(問10)とのクロス集計では、賛成派は、市政への関心度が高い人で58.5%、関心度が低い人では40.1%と関心度による違いが見られた。
 - ・政令指定都市を目指すことについて、地方分権の動きへの関心度(問1)や、市政への関心度(問10)が高い人は、賛成派が多くなる傾向が見られた。
 - ・パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計では、賛成派は、パンフレットの内容に理解度が高いグループで70.0%と高く、理解度が低いグループでは42.6%と低かった。パンフレットの内容を理解した人ほど、政令指定都市を目指すことについて賛成派の割合が高い傾向が見られた。
- (2) 合併・政令指定都市移行に期待すること
 - ・政令指定都市移行への期待について上位3つの項目は、割合が高い順に「行政機能の効率化が図られる」、「財政基盤が強化される」、「市独自の政策が打ち出せることや手続きのスピードアップが図れる」であった。
 - ・「まちの魅力、にぎわいが増す」については、若年層「15～29歳」で最も多い回答であった。
 - ・最も多い回答であった「行政機能の効率化が図られる」に期待する割合は、政令指定都市を目指すことについての賛否に関わらず高い傾向が見られ、二番目に多かった「財政基盤が強化される」は、政令指定都市を目指すことへの反対派では期待が低い特徴が見られた。
- (3) 合併・政令指定都市移行に心配すること
 - ・政令指定都市へ移行する際の心配では、「財政負担が増加する」が最も多かった。
 - ・若年層「15～29歳」において、「地域への愛着が低下する」が最も多い回答であった。
 - ・「財政負担が増加する」については、パンフレット内容の理解度(問2)や、政令指定都市を目指すことへの賛否(問3)に関わらず高い傾向が見られた。

(1) 政令指定都市を目指すことへの賛否

松戸市が近隣市と合併して、政令指定都市を目指すことについての市民の考え、賛否を問う設問として、以下の問いを設定した。

- 問3 松戸市が近隣のどこかの市と合併して、政令指定都市を目指すとしたら、あなたはどのように思いますか。(1つに)
- 1. 賛成(23.5%)
 - 2. どちらかといえば賛成(29.3%)
 - 3. どちらともいえない(28.5%)
 - 4. どちらかといえば反対(8.0%)
 - 5. 反対(5.4%)
 - 6. わからない(3.0%)

政令指定都市を目指すことへの賛否については、「賛成」が23.5%、「どちらかといえば賛成」が29.3%で、両者を合わせた賛成派は52.8%という結果であった。また、「どちらともいえない」は28.5%となっている。「どちらかといえば反対」は8.0%で、「反対」は5.4%で、両者を合わせた反対派は13.4%であった。賛成派は過半数を超える52.8%、反対派は13.4%であった。

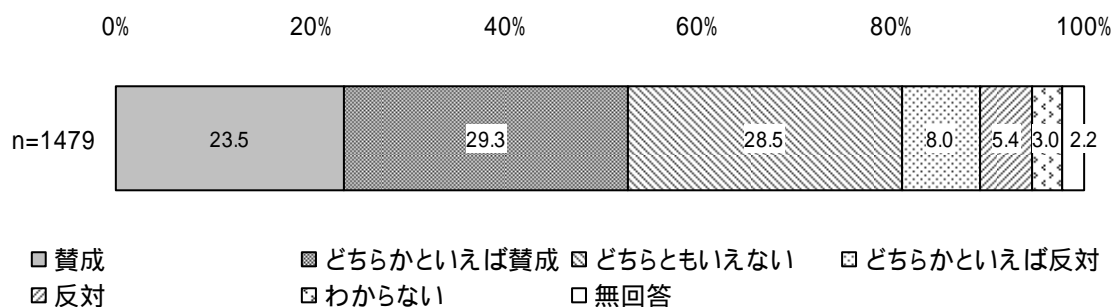


図7 政令指定都市を目指すことへの賛否

【属性別の傾向】

賛成派について、属性別の傾向を見た。

性別

・性別では「男性」59.7%、「女性」が46.8%となっている。

年齢

・年齢別では、「40～49歳」(57.0%)が高かった。

居住地域

・居住地域別では、「小金」(65.8%)、「馬橋」(59.4%)が高く、「矢切」(41.3%)、「松戸」(45.0%)、「明」(49.7%)が低くなっている。

居住パターン

・居住パターンの「他から引っ越してきた」(54.0%)に比べ、「生まれてからずっと松戸」(43.0%)が低くなっている。

【地方分権の動きへの関心度(問1)とのクロス集計】

地方分権の動きへの関心度(問1)とのクロス集計では、賛成派は、地方分権の動きへの関心度が高い人で67.1%と高く、関心度が低いでは24.6%と関心度による大きな違いが見られた。

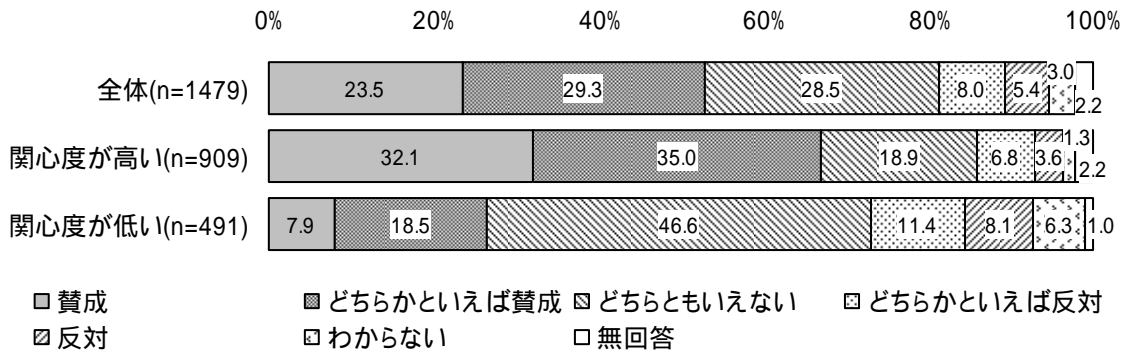


図8 問1 × 政令指定都市を目指すことへの賛否

【市政への関心度(問10)とのクロス集計】

市政への関心度(問10)とのクロス集計では、賛成派は、市政への関心度が高い人で58.5%、関心度が低い人では40.1%と関心度による違いが見られた。

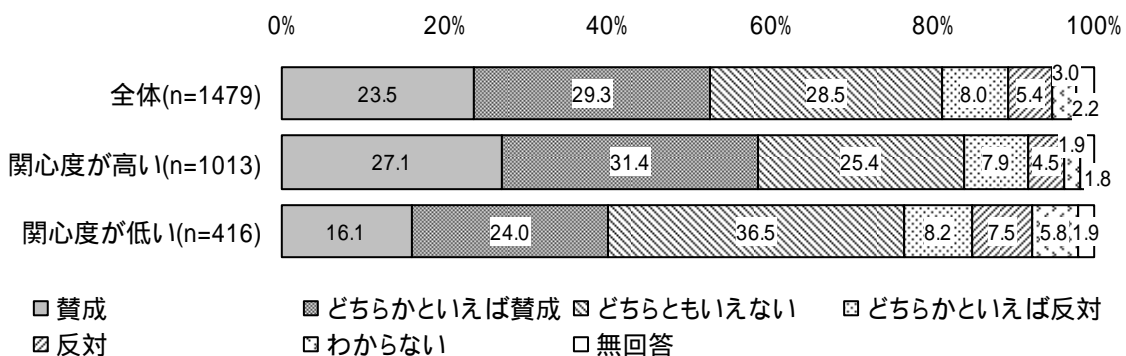


図9 問10 × 政令指定都市を目指すことへの賛否

政令指定都市を目指すことについて賛成派は、地方分権の動きへの関心度(問1)や、市政への関心度(問10)が高い傾向が見られた。

【パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計】

パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計では、賛成派は、パンフレットの内容に理解度が高いグループで70.0%と高く、理解度が低いグループでは42.6%と低かった。パンフレットの内容を理解した人ほど、政令指定都市を目指すことについて賛成の割合が高い傾向が見られた。また、理解度の低いグループでは「どちらともいえない」が36.9%と最も多かった。

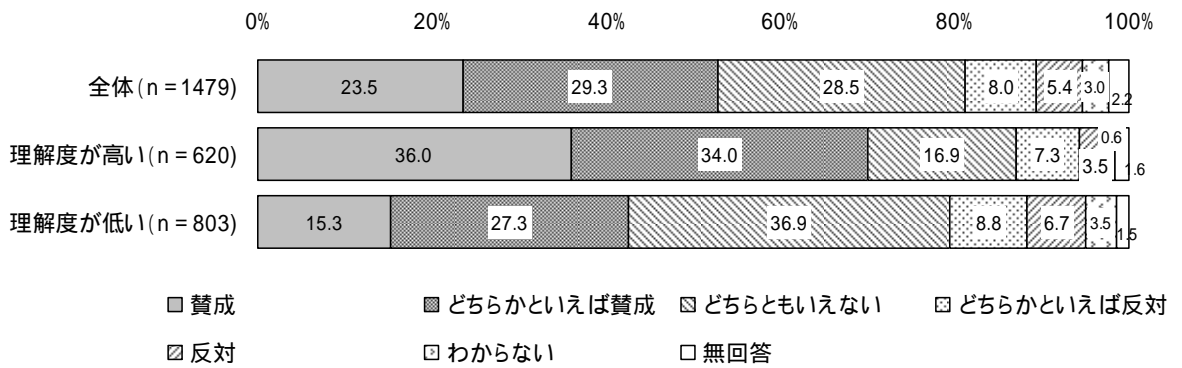


図10 問2(総合評価)×政令指定都市を目指すことへの賛否

(2) 政令指定都市へ移行する際に期待すること

松戸市が近隣市と合併して、政令指定都市に移行すると仮定した場合に、市民がどのようなことに期待をしているかを把握するため、一般的にいわれる合併によるスケールメリットによる効果や国や県から権限委譲等から選択する問いを設けた。

問4 松戸市が合併し、政令指定都市に移行すると仮定した場合、どのようなことを期待しますか。あなたの考えに近いものを、次の中から選んでください。(主なもの2つに)

1. 市のイメージアップが図られることから、まちの魅力、にぎわいが増す(20.6%)
2. 区役所の設置や他市の公共施設が使えるなど、利便性が向上する(19.0%)
3. 区を単位とした行政運営により、住民の声を反映しやすくなる(8.5%)
4. 国や県から自立することから、市独自の政策が打ち出せることや手続きのスピードアップが図られる(28.4%)
5. 議員数・職員数が削減されることや公共施設の効率的な配置など、行政機能の効率化が図られる(37.9%)
6. 他市との合併により財政規模が大きくなり、新たな財源が入ることから財政基盤が強化される(32.7%)
7. 防災や医療等の諸課題に、市域の枠を超えて広域的に対応できる(24.8%)
8. その他(2.9%)
9. 特にない(7.0%)
10. わからない(4.4%)

政令指定都市移行への期待については、「行政機能の効率化が図られる」(37.9%)、「財政基盤が強化される」(32.7%)、「市独自の政策が打ち出せることや手続きのスピードアップが図れる」(28.4%)が上位3つの項目であった。

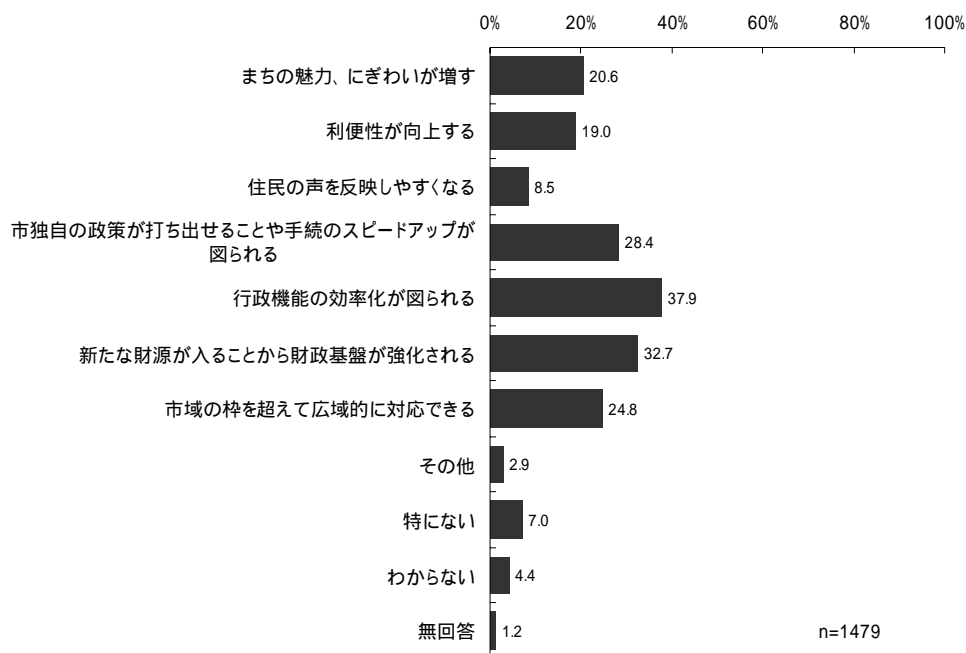


図 1 1 政令指定都市へ移行する際に期待すること

【年齢別の傾向】

- ・上位の3つの項目である「行政機能の効率化が図られる」、「財政基盤が強化される」、「市独自の政策が打ち出せることや手続きのスピードアップが図れる」は、年齢に関わらず高い傾向が見られた。
- ・若年層「15～29歳」では、「まちの魅力、にぎわいが増す」や「利便性が向上する」で高い特徴がある。

表2 属性×政令指定都市へ移行する際に期待すること

属性		件数	まちの魅力、にぎわいが増す	利便性が向上する	住民の声を反映しやすくなる	市独自の政策が打ち出せることや手続きのスピードアップが図られる	行政機能の効率化が図られる	新たな財源が入ることから財政基盤が強化される	市域の枠を超えて広域的に対応できる	その他	特になし	わからない	無回答
全体		1,479	20.6	19.0	8.5	28.4	37.9	32.7	24.8	2.9	7.0	4.4	1.2
性別	女性	757	21.7	22.7	9.1	26.3	32.0	33.8	26.9	2.5	6.5	5.2	1.2
	男性	682	20.1	15.0	8.1	30.9	44.7	32.0	22.3	3.2	7.5	3.2	0.7
年齢	15～19歳	46	41.3	26.1	6.5	10.9	15.2	28.3	21.7	4.3	8.7	10.9	0.0
	20～29歳	147	34.7	29.9	4.1	24.5	25.2	34.7	24.5	4.1	9.5	2.0	0.0
	30～39歳	243	27.6	30.0	8.2	25.9	31.7	33.7	21.4	2.9	5.3	2.1	0.4
	40～49歳	214	17.8	25.2	12.1	25.7	38.3	36.4	21.5	2.8	5.6	2.3	0.5
	50～59歳	218	19.3	14.2	8.7	31.2	41.3	34.9	26.6	2.3	6.9	5.5	0.5
	60～69歳	333	16.5	10.2	8.7	32.7	48.3	30.9	26.7	2.1	6.3	4.5	1.2
	70歳以上	239	12.1	10.5	8.8	31.0	39.3	30.1	26.8	3.3	8.8	6.7	3.3
居住地域	松戸	171	24.6	16.4	9.9	26.3	37.4	26.3	27.5	4.1	5.8	6.4	0.6
	明	147	19.7	19.0	12.9	26.5	38.8	36.7	25.2	2.0	6.8	2.7	0.0
	矢切	58	15.5	13.8	5.2	25.9	44.8	25.9	27.6	5.2	8.6	6.9	0.0
	東部	109	22.9	22.0	6.4	28.4	35.8	37.6	27.5	0.9	6.4	3.7	0.0
	馬橋	133	26.3	18.0	5.3	32.3	39.8	33.1	18.8	3.0	9.8	5.3	0.8
	古ヶ崎	70	15.7	14.3	10.0	18.6	42.9	48.6	21.4	1.4	7.1	5.7	1.4
	常盤平	296	22.0	19.6	8.8	28.4	35.1	31.1	25.3	2.0	7.4	6.1	1.4
	六実	70	18.6	30.0	12.9	31.4	28.6	32.9	25.7	1.4	2.9	5.7	0.0
	小金	117	18.8	18.8	8.5	31.6	35.9	38.5	25.6	1.7	4.3	0.9	2.6
	小金原	94	19.1	20.2	6.4	33.0	38.3	30.9	20.2	5.3	7.4	2.1	2.1
	新松戸	155	16.8	18.1	5.8	31.6	47.1	31.6	23.9	4.5	7.7	0.6	1.3

網掛けは上位3項目

【パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計】

パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計では、理解度の高低によって上位3項目に大きな違いは見られないが、理解度が高いグループでは若干高い傾向が見られた。

【政令指定都市を目指すことへの賛否(問3)とのクロス集計】

最も多い回答であった「行政機能の効率化が図られる」に期待する割合は、政令指定都市を目指すことについての賛否に関わらず高い傾向が見られ、二番目に多かった「財政基盤が強化される」は、政令指定都市を目指すことへの反対派では期待が低い特徴が見られた。

表3 問2(総合評価)、問3×政令指定都市へ移行する際に期待すること

区分		件数	まちの魅力、にぎわいが増す	利便性が向上する	住民の声を反映しやすくなる	市独自の政策が打ち出せることや手続のスピードアップが図られる	行政機能の効率化が図られる	新たな財源が入ることから財政基盤が強化される	市域の枠を超えて広域的に対応できる	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1,479	20.6	19.0	8.5	28.4	37.9	32.7	24.8	2.9	7.0	4.4	1.2
理解度の パンフ	理解度が高い	620	20.6	20.5	8.2	32.4	39.4	35.8	22.3	2.1	1.6	0.8	0.5
	理解度が低い	803	19.9	17.3	8.5	26.0	35.1	29.3	26.0	2.2	5.5	3.6	0.5
政令指定都市を目指すこと について	賛成	348	27.6	19.0	9.5	34.2	43.1	39.1	19.3	1.7	0.3	0.0	0.6
	どちらかといえば賛成	433	25.2	19.2	7.9	30.9	38.3	41.8	25.9	1.4	1.6	0.9	0.0
	どちらともいえない	421	15.4	21.1	9.5	27.6	37.1	28.5	29.7	2.6	10.0	6.2	0.5
	どちらかといえば反対	119	16.0	16.0	9.2	25.2	32.8	21.8	26.9	5.9	12.6	5.9	1.7
	反対	80	6.3	13.8	6.3	12.5	33.8	5.0	18.8	13.8	35.0	12.5	1.3
	わからない	45	15.6	15.6	2.2	13.3	33.3	22.2	22.2	4.4	17.8	35.6	0.0

網掛けは上位3項目

(3) 政令指定都市へ移行する際に心配すること

松戸市が近隣市と合併して、政令指定都市に移行すると仮定した場合に、市民がどのようなことを心配しているかを把握するため、一般的に合併により懸念される事項について選択する問いを設けた。

問5 松戸市が合併し、政令指定都市に移行すると仮定した場合、どのようなことが心配ですか。あなたの考えに近いものを、次の中から選んでください。(主なもの2つに)

1. 市の名前が変わってしまい、地域への愛着などが低下する(28.7%)
2. 市役所が遠くなるなど利便性が低下する(24.1%)
3. 市域の拡大によって、住民の声の反映が難しくなる(23.5%)
4. 行政サービスの質や水準が低下する(25.4%)
5. 他市の借金や県の事業などを引き受けることで、財政負担が増加する(36.9%)
6. 市域の中での地域間格差(新市役所が置かれなかった地域が寂れるなど)が生じる(26.3%)
7. 地域の文化や伝統、個性や特徴が失われる(9.9%)
8. その他(2.2%)
9. 特にない(6.6%)
10. わからない(4.1%)

政令指定都市へ移行する際の心配では、「財政負担が増加する」が36.9%で最も高く、「地域への愛着などが低下する」(28.7%)、「市域の中での地域間格差が生じる」(26.3%)、「行政サービスの質や水準が低下する」(25.4%)、「市役所が遠くなるなど利便性が低下する」(24.1%)、「住民の声の反映が難しくなる」(23.5%)が20%台となっている。

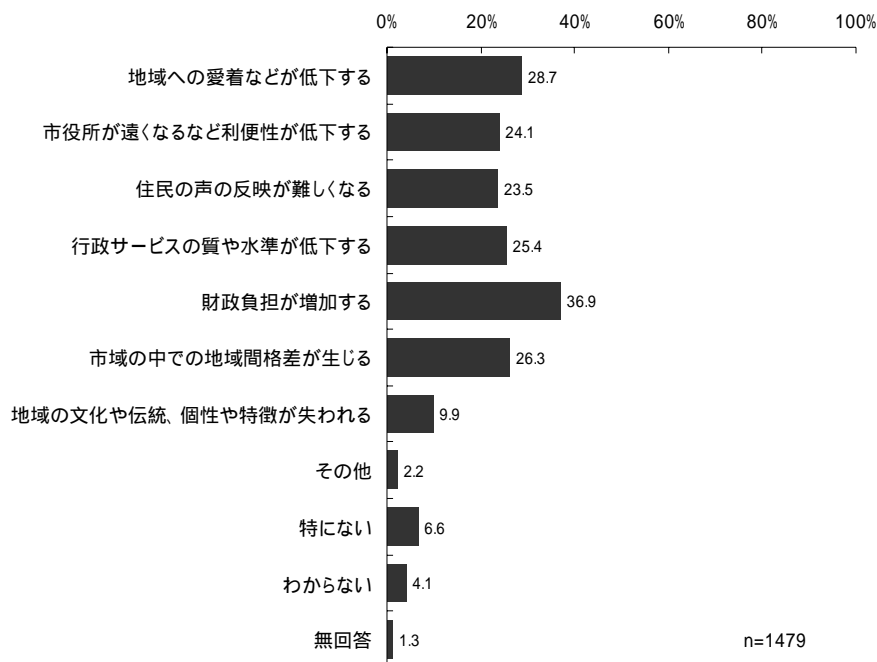


図13 政令指定都市へ移行する際に心配すること

【年齢別の傾向】

- ・年齢別では、全体で最も高い「財政負担が増加する」が各年代でも高い傾向が見られた。
- ・若年層「15～29歳」では「地域への愛着が低下する」が最も多かった。

表4 属性×政令指定都市へ移行する際に心配すること

(%)

属性		件数	地域への愛着などが低下する	市役所が遠くなるなど利便性が低下する	住民の声の反映が難しくなる	行政サービスの質や水準が低下する	財政負担が増加する	市域の中での地域間格差が生じる	地域の文化や伝統、個性や特徴が失われる	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1,479	28.7	24.1	23.5	25.4	36.9	26.3	9.9	2.2	6.6	4.1	1.3
性別	女性	757	30.6	27.6	23.2	21.1	36.1	26.6	10.2	1.6	5.5	5.0	1.6
	男性	682	27.1	20.1	24.2	30.5	38.3	26.4	9.7	3.1	7.6	2.2	0.4
年齢	15～19歳	46	54.3	23.9	10.9	6.5	32.6	15.2	19.6	2.2	6.5	8.7	0.0
	20～29歳	147	38.8	32.0	21.8	24.5	34.0	23.8	15.0	2.7	2.0	2.0	0.0
	30～39歳	243	24.7	27.6	18.9	27.6	43.6	28.8	7.0	4.1	6.2	2.9	0.4
	40～49歳	214	24.3	25.7	23.4	28.0	39.7	23.8	10.3	2.3	7.5	2.8	1.4
	50～59歳	218	22.9	23.4	28.0	27.1	36.7	32.6	6.9	1.8	5.5	4.6	0.0
	60～69歳	333	29.1	18.9	27.9	27.9	35.7	27.0	9.6	1.5	6.6	3.9	0.9
	70歳以上	239	31.8	21.8	22.6	20.5	32.6	23.8	10.9	1.7	10.0	4.6	3.8
居住地	松戸	171	30.4	31.6	25.1	20.5	33.3	25.1	12.3	2.9	3.5	3.5	0.6
	明	147	29.9	23.1	23.1	24.5	38.8	29.9	9.5	0.0	8.8	2.7	0.0
	矢切	58	34.5	27.6	25.9	22.4	34.5	17.2	10.3	0.0	10.3	5.2	0.0
	東部	109	35.8	19.3	23.9	30.3	33.9	22.9	9.2	0.9	7.3	3.7	0.9
	馬橋	133	25.6	24.1	25.6	25.6	36.8	25.6	12.8	3.0	3.8	3.0	3.0
	古ヶ崎	70	27.1	30.0	24.3	24.3	34.3	31.4	7.1	2.9	4.3	5.7	1.4
	常盤平	296	30.7	19.6	23.0	23.3	36.1	27.4	8.8	2.4	8.8	5.4	1.4
	六実	70	32.9	22.9	21.4	31.4	47.1	20.0	10.0	1.4	2.9	4.3	0.0
	小金	117	25.6	23.1	21.4	28.2	41.9	30.8	9.4	0.9	5.1	2.6	1.7
	小金原	94	25.5	24.5	21.3	21.3	38.3	26.6	16.0	3.2	9.6	4.3	0.0
	新松戸	155	23.2	25.8	25.2	32.3	37.4	28.4	7.1	3.2	5.8	1.3	1.3

網掛けは上位3項目

【パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計】

パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計では、最も上位の「財政負担が増加する」は理解度が高いグループと理解度が低いグループでも36.1%と最も高く、各項目においても理解度の高低による違いはあまり見られなかった。

【政令指定都市を目指すことへの賛否(問3)とのクロス集計】

政令指定都市を目指すことへの賛否(問3)とのクロス集計をみると、「地域への愛着などが低下する」で「どちらかといえば反対」(52.1%)が、「地域の文化や伝統、個性や特徴が失われる」で「反対」(30.0%)が高い割合を示している。また、政令指定都市を目指すことについての賛否に関わらず、「財政負担が増加する」は30%台と高い割合を示している。

表5 問2(総合評価)、問3×政令指定都市へ移行する際に心配すること

区 分		件数	(%)										
			地域への愛着などが低下する	市役所が遠くなるなど利便性が低下する	住民の声の反映が難しくなる	行政サービスの質や水準が低下する	財政負担が増加する	市域の中での地域間格差が生じる	地域の文化や伝統、個性や特徴が失われる	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1,479	28.7	24.1	23.5	25.4	36.9	26.3	9.9	2.2	6.6	4.1	1.3
パンフレット内容の理解度合い	理解度が高い	620	25.5	21.9	25.2	29.0	36.1	28.1	11.1	2.1	3.5	1.2	0.3
	理解度が低い	803	28.3	24.5	21.5	23.3	36.1	25.8	9.1	2.0	3.1	3.2	0.7
政令指定都市を目指すことについて	賛成	348	22.7	19.0	23.3	29.6	39.1	27.0	10.6	2.0	12.4	2.9	0.3
	どちらかといえば賛成	433	24.9	27.9	23.8	25.4	37.6	31.4	7.6	1.8	5.1	2.8	0.7
	どちらともいえない	421	32.5	27.8	26.4	23.8	36.1	24.5	8.6	2.6	5.0	4.0	1.0
	どちらかといえば反対	119	52.1	17.6	21.0	18.5	39.5	26.1	11.8	1.7	0.8	2.5	0.0
	反対	80	31.3	22.5	18.8	28.8	31.3	17.5	30.0	5.0	2.5	2.5	0.0
	わからない	45	20.0	22.2	11.1	22.2	37.8	15.6	2.2	2.2	15.6	26.7	0.0

網掛けは上位3項目

3. 合併パターン・相手に関する態度

松戸市が合併し政令指定都市を目指す場合に、市民は実際にどの枠組みを支持し、また、合併相手を選ぶ際に重視していることは何かを把握することを目的とする。

構成

- (1) 松戸市の3つのケースによる合併の賛否
- (2) 合併相手として良いと思う市
- (3) 合併相手を考える際に重視する点

結果の概要

- (1) 松戸市の3つのケースによる合併の賛否
 - ・3つのケースのうち賛成派が多いのは、「北側の東葛地域で合併」の42.3%で、続いて「南側の葛南地域で合併」(35.7%)、「東葛、葛南地域の両方と合併」(34.9%)であった。
 - ・また、反対派は、「南側の葛南地域で合併」が25.9%で高く、続いて「東葛、葛南地域の両方と合併」(23.5%)、「北側の東葛地域で合併」(22.1%)であった。
 - ・地域別にみると、「小金」_、「馬橋」_、「小金原」_、「新松戸」では「北側の東葛地域での合併」を支持し、「東部」_、「六実」では「南側の葛南地域での合併」を支持する傾向が見られた。
- (2) 合併相手として良いと思う市
 - ・合併相手として一番良いと思う市は「柏市」(41.2%)で最も高く、これに「市川市」(24.1%)、「流山市」(12.8%)、「船橋市」(7.1%)、「鎌ヶ谷市」(3.1%)が続いている。
 - ・東葛地域で合併賛成派の65.5%が「柏市」を支持し、葛南地域で合併賛成派の49.0%は「市川市」を支持する傾向にあり、北側と南側とで大きく意見が分かれる結果となった。
 - ・合併相手として一番良いと思う市に「柏市」を選んだ人は、合併相手として二番目に良いと思う市に「流山市」_、「市川市」を選んだ人が多く、一番目に「市川市」を選んだ人は、二番目に「柏市」_、「船橋市」を選ぶ人が多かった。
 - ・合併相手として一番良いと思う市に「柏市」を選んだ人を居住地域別にみると、「小金」_、「馬橋」_、「小金原」で高く、「東部」_、「矢切」が低い特徴が見られた。一番良いと思う市に「市川市」を選んだ人では、「東部」_、「矢切」が高く、「古ヶ崎」_、「小金」_、「馬橋」_、「新松戸」_、「小金原」_、「六実」が低かった。また、一番良いと思う市に「流山市」を選んだ人は、「古ヶ崎」で割合が多く、「柏市」と同程度の割合を示している。
- (3) 合併相手を考える際に重視する点
 - ・合併相手を考える際に重視する点としては、「将来的な発展が期待できるから」(40.5%)、「土地の連続性があるから」(40.4%)、「日常生活でつながりがあるから」(37.9%)の3つが高かった。
 - ・合併相手として一番良いと思う市に「柏市」を選んだ人は「日常生活でつながりがあるから」(52.3%)、「市川市」を選んだ人は「将来的な発展が期待できるから」(43.1%)、「流山市」を選んだ人は「土地の連続性があるから」(62.6%)、「船橋市」を選んだ人は「将来的な発展が期待できるから」(51.4%)が最も高かった。

(1) 松戸市の3つのケースによる合併の賛否

東葛飾・葛南地域における松戸市の立地位置は中央に位置することから、合併の組合せを考えると、北側の東葛地域との合併、南側の葛南地域との合併、東葛・葛南両方含めての合併の3つのパターンが考えられる。そのため、合併の枠組みについて3つのケースを想定した場合について、それぞれのケースに対しての賛否を把握するため、以下の問いを設けた。

問6 松戸市の合併について、次のア～ウの3つのケースを想定した場合、それぞれのケースに対するあなたの考えを項目ごとにお答えください。(それぞれの番号1つに)

	賛成する	賛成する どちらかといえば	どちらともいえない	反対する どちらかといえば	反対する	わからない
ア．松戸市からみて北側の東葛地域で合併して政令指定都市を目指す。 (柏市、流山市など)	1 (16.6%)	2 (25.7%)	3 (24.7%)	4 (11.5%)	5 (10.6%)	6 (5.6%)
イ．松戸市からみて南側の葛南地域で合併して政令指定都市を目指す。 (市川市、船橋市など)	1 (13.9%)	2 (21.8%)	3 (25.9%)	4 (14.3%)	5 (11.6%)	6 (5.9%)
ウ．東葛、葛南地域の両方と合併して政令指定都市を目指す。 (柏市、市川市など)	1 (13.3%)	2 (21.6%)	3 (29.1%)	4 (13.2%)	5 (10.3%)	6 (5.9%)

松戸市の3つのケースによる合併の賛否について、賛成派は、「北側の東葛地域で合併」で42.3%と最も高く、続いて「南側の葛南地域で合併」と「東葛、葛南地域の両方と合併」がそれぞれ35.7%、34.9%となっている。

また、反対派は、「南側の葛南地域で合併」が25.9%で最も高く、「東葛、葛南地域の両方と合併」(23.5%)、「北側の東葛地域で合併」(22.1%)であった。

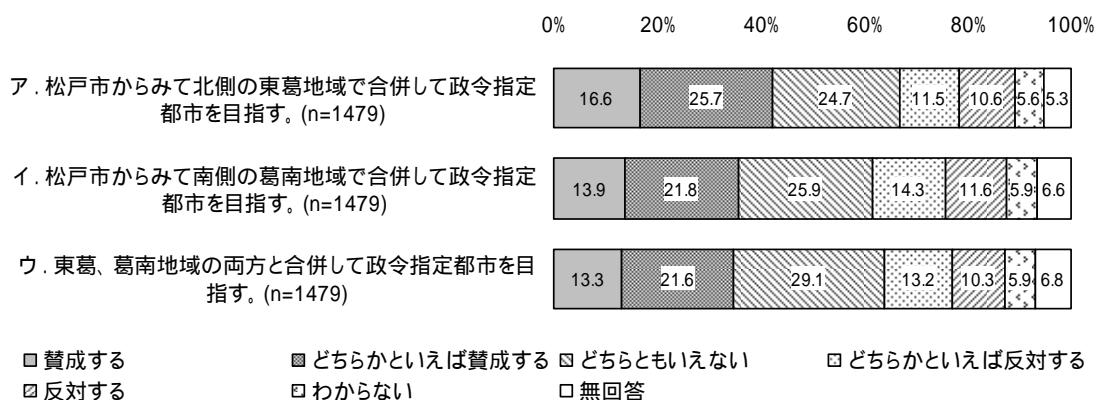


図1-3 松戸市の3つのケースによる合併の賛否

ア．北側の東葛地域での合併の賛否

【居住地域別の傾向】

「北側の東葛地域での合併」の賛成派は、「小金」(64.1%)、「馬橋」(56.4%)、「小金原」(54.2%)、「新松戸」(51.6%)が高く、「東部」(22.1%)、「六実」(28.6%)が低くなっている。「東部」では、反対派(39.5%)が、賛成派(22.1%)の割合を上回っている。



図 1 4 属性×北側の東葛地域での合併の賛否

【パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計】

パンフレット内容の理解度(問2)とのクロス集計では、北側の東葛地域での合併賛成派は、パンフレット内容の理解度が高いグループで50.5%、理解度が低いグループでは37.7%となった。反対派は、パンフレット内容の理解度が高いグループで21.1%、理解度が低いグループでは22.7%となった。

イ．南側の葛南地域での合併の賛否

【居住地域別の傾向】

「南側の葛南地域での合併」の賛成派は、「東部」(56.9%)が高く、「古ヶ崎」(24.3%)が低かった。「古ヶ崎」、「小金」、「新松戸」では、反対派が賛成派の割合を上回っている。

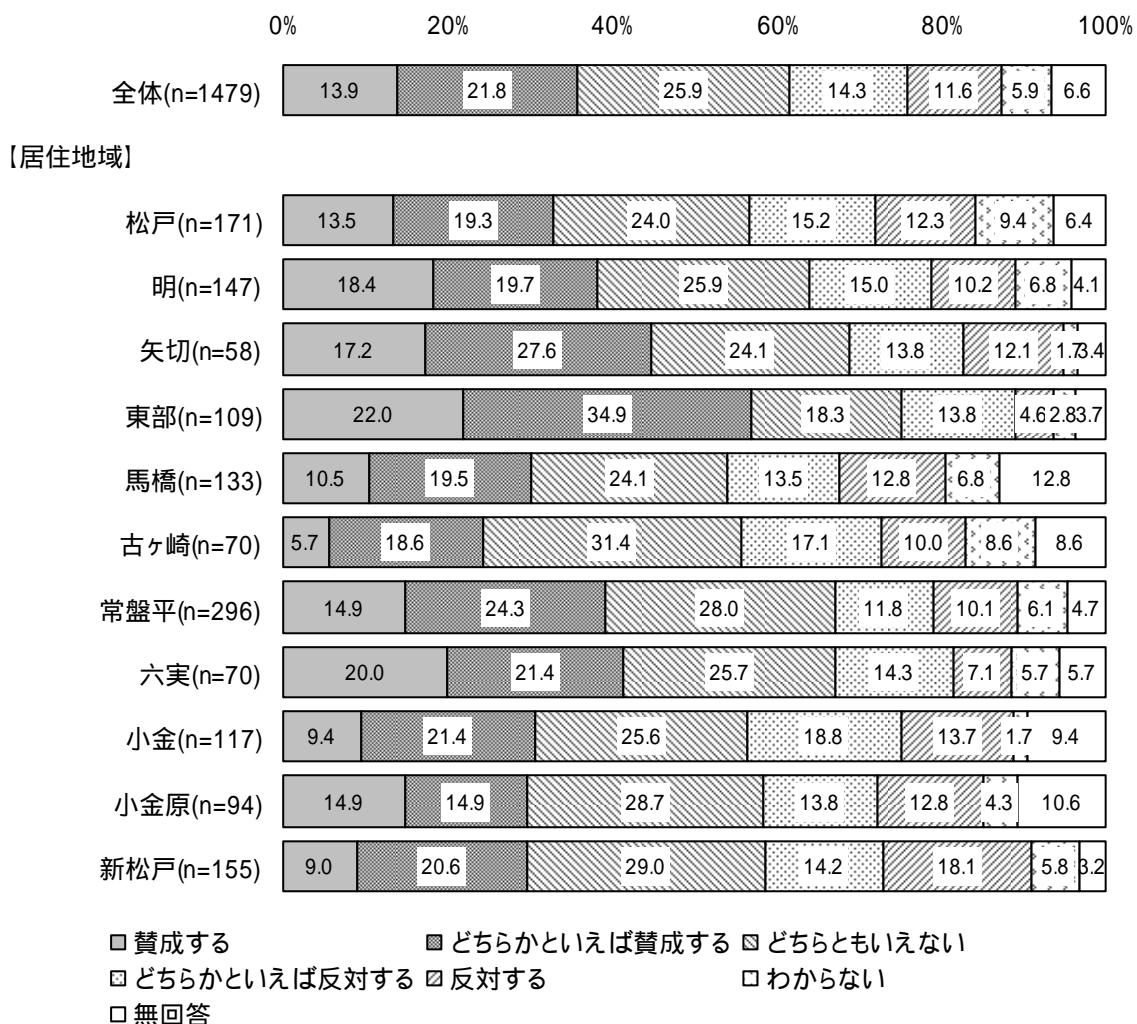


図 1 5 属性 × 南側の葛南地域での合併の賛否

【パンフレット内容の理解度(問 2)とのクロス集計】

パンフレット内容の理解度(問 2)とのクロス集計では、「南側の葛南地域での合併」の賛成派は、パンフレット内容の理解度が高いグループで 41.9%、理解度が低いグループは 32.4%となった。反対派は、パンフレット内容の理解度が高いグループで 27.6%、理解度が低いグループは 24.7%となった。

ウ．東葛・葛南地域での合併の賛否

【居住地域別の傾向】

「東葛・葛南地域での合併」の賛成派は、「矢切」(43.1%)と「東部」(42.2%)で高く、「古ヶ崎」(24.3%)が低くなっている。「古ヶ崎」は反対と賛成派の合わせた割合と同じであるが、他の地域では賛成派の割合が反対派を上回っている。

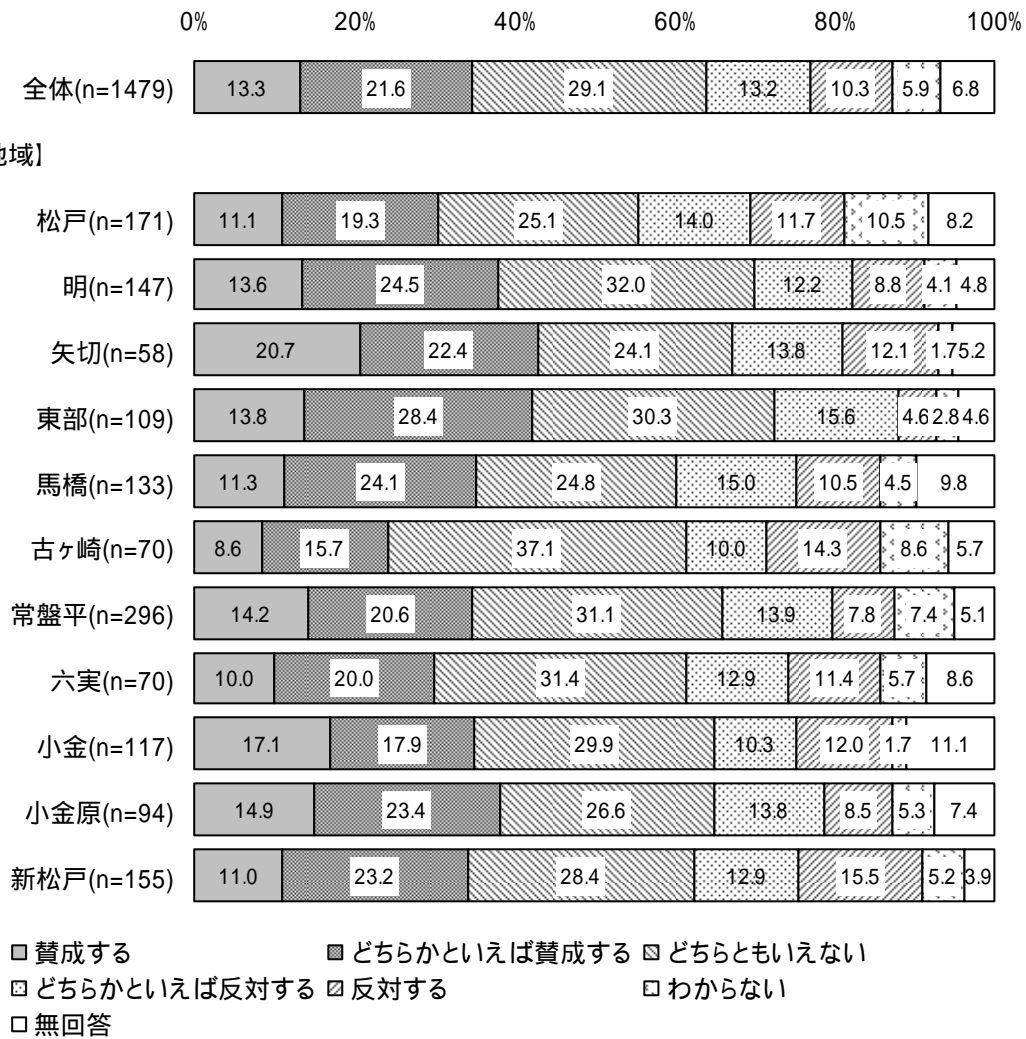


図 1 6 属性×東葛・葛南地域での合併の賛否

【パンフレット内容の理解度(問 2)とのクロス集計】

パンフレット内容の理解度(問 2)とのクロス集計では、「東葛・葛南地域での合併」の賛成派は、パンフレット内容の理解度が高いグループで 43.5%、理解度が低いグループは 29.6%となった。反対派は、パンフレット内容の理解度が高いグループで 24.4%、理解度が低いグループは 23.0%となった。

【ア～ウの項目間の傾向】

ア～ウにおいて「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を賛成派、「どちらかといえば反対する」と「反対する」を反対派と分類し、それぞれの回答状況を以下の表に整理した。

「北側の東葛地域で合併」の賛成派では、「南側の葛南地域で合併」の賛成派が 27.5%、反対派が 33.7%、「東葛・葛南地域両方で合併」の賛成派が 40.9%、反対派が 23.0%であった。「南側の葛南地域で合併」の賛成派では、「北側の東葛地域で合併」の賛成派が 32.6%、反対派が 32.2%、「東葛・葛南地域両方で合併」の賛成派が 53.0%、反対派が 17.0%であった。「北側の東葛地域で合併」と「南側の葛南地域で合併」の賛成派は、「東葛・葛南地域両方で合併」も支持する人が多い傾向が見られた

「東葛・葛南地域両方で合併」の賛成派では、「北側の東葛地域で合併」の賛成派が 49.7%、反対派が 18.1%、「南側の葛南地域で合併」の賛成派が 54.4%、反対派が 15.1%であった。「東葛・葛南地域両方で合併」に賛成でも、「北側の東葛地域で合併」、「南側の葛南地域で合併」、それぞれに反対する人がいることがわかった。また、「東葛・葛南地域両方で合併」の反対派では、「北側の東葛地域で合併」の賛成派が 41.5%、反対派が 47.6%、「南側の葛南地域で合併」の賛成派が 25.9%、反対派が 64.8%であった。「東葛・葛南地域両方で合併」に反対でも、「北側の東葛地域で合併」、「南側の葛南地域で合併」、それぞれに賛成する人がいることがわかった。

表6 3つのケースによる合併の賛否の関係

(%)

区分	件数	割合	北側の東葛地域で合併			南側の葛南地域で合併			東葛・葛南地域両方で合併			
			賛成派	どちらでもない	反対派	賛成派	どちらでもない	反対派	賛成派	どちらでもない	反対派	
全体	1479											
北側の東葛地域で合併	賛成派	626	42.3	-	-	-	27.5	30.2	33.7	40.9	27.8	23.0
	どちらでもない	365	24.7	-	-	-	41.4	42.7	12.1	35.6	52.1	8.2
	反対派	327	22.1	-	-	-	52.0	8.6	36.4	28.4	17.4	50.5
南側の葛南地域で合併	賛成派	528	35.7	32.6	28.6	32.2	-	-	-	53.0	21.9	17.0
	どちらでもない	383	25.9	49.3	40.7	7.3	-	-	-	32.1	58.5	7.0
	反対派	382	25.9	55.2	11.5	31.2	-	-	-	20.4	19.9	58.9
東葛・葛南地域両方で合併	賛成派	515	34.9	49.7	25.2	18.1	54.4	23.9	15.1	-	-	-
	どちらでもない	430	29.1	40.5	44.2	13.3	29.3	52.1	17.7	-	-	-
	反対派	347	23.5	41.5	8.6	47.6	25.9	7.8	64.8	-	-	-

(2) 合併しても良いと思う市

松戸市が合併して政令指定都市を目指すことを想定した場合、具体的に合併相手としてどこの市が良いと考えているかを把握するため、一番目と二番目に分けて合併相手を選ぶ問いを設けた。

問7 仮に、松戸市が近隣の市と合併して政令指定都市を目指す場合、あなたが合併しても良いと思う市はどこですか。一番目と二番目に分けてお答えください。
(それぞれの番号1つに)

一番目に良いと思う市	二番目に良いと思う市
1. 流山市(12.8%)	1. 流山市(18.7%)
2. 柏市(41.2%)	2. 柏市(20.8%)
3. 鎌ヶ谷市(3.1%)	3. 鎌ヶ谷市(9.9%)
4. 市川市(24.1%)	4. 市川市(21.5%)
5. 船橋市(7.1%)	5. 船橋市(11.4%)
6. その他(0.7%)	6. その他(1.4%)
7. 適切な市はない(4.2%)	7. 適切な市はない(6.6%)
8. わからない(5.3%)	8. わからない(7.4%)

合併相手として一番良いと思う市は、「柏市」(41.2%)が最も高く、これに「市川市」(24.1%)、「流山市」(12.8%)、「船橋市」(7.1%)、「鎌ヶ谷市」(3.1%)が続いている。また、合併相手として二番目に良いと思う市は、「市川市」(21.5%)、「柏市」(20.8%)、「流山市」(12.8%)、「船橋市」(11.4%)、「鎌ヶ谷市」(9.9%)の順となっている。

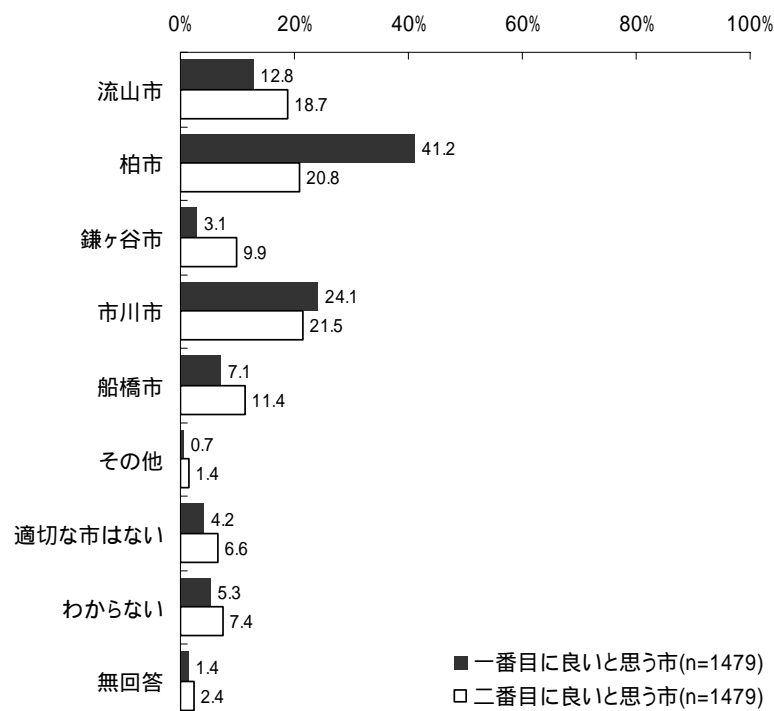


図17 合併しても良いと思う市

【3つのケースによる合併の賛否(問6)の賛成派とのクロス集計】

問6の3つのケースによる合併の賛成派の合併相手として一番良いと思う市について上位3つをみると、「東葛地域での合併賛成派」は、「柏市」(65.5%)、「流山市」(24.1%)、「市川市」(7.8%)、「葛南地域での合併賛成派」は、「市川市」(49.0%)、「柏市」(23.8%)、「船橋市」(16.8%)、「東葛・葛南両方での合併賛成派」は「柏市」(50.6%)、「市川市」(33.0%)、「流山市」,「船橋市」(共に6.4%)であった。「東葛地域での合併賛成派」は「柏市」,「葛南地域での合併賛成派」は「市川市」,「東葛・葛南両方での合併賛成派」は「柏市」を合併相手として支持する傾向が見られた。

表7 3つのケースによる合併の賛成派における合併しても良いと思う市(一番)(%)

区分	件数	柏市	市川市	流山市	船橋市	鎌ヶ谷市	その他
全体	1,479	41.2	24.1	12.8	7.1	3.1	0.7
東葛地域での合併賛成派	626	65.5	7.8	20.3	2.1	1.3	0.3
葛南地域での合併賛成派	525	23.8	49.0	5.0	16.8	3.6	0.2
東葛・葛南両方での合併賛成派	512	50.6	33.0	6.4	6.4	1.4	0.4

【合併しても良いと思う市の一番と二番の関係】

合併相手として一番良いと思う市に「柏市」を選んだ人(610件)では、合併相手として二番目に良いと思う市について「流山市」(234件)、「市川市」(217件)を選んだ人が多かった。また、合併相手として一番良いと思う市に「市川市」を選んだ人(357件)では、合併相手として二番目に良いと思う市について「柏市」(146件)、「船橋市」(113件)を選んだ人が多かった。

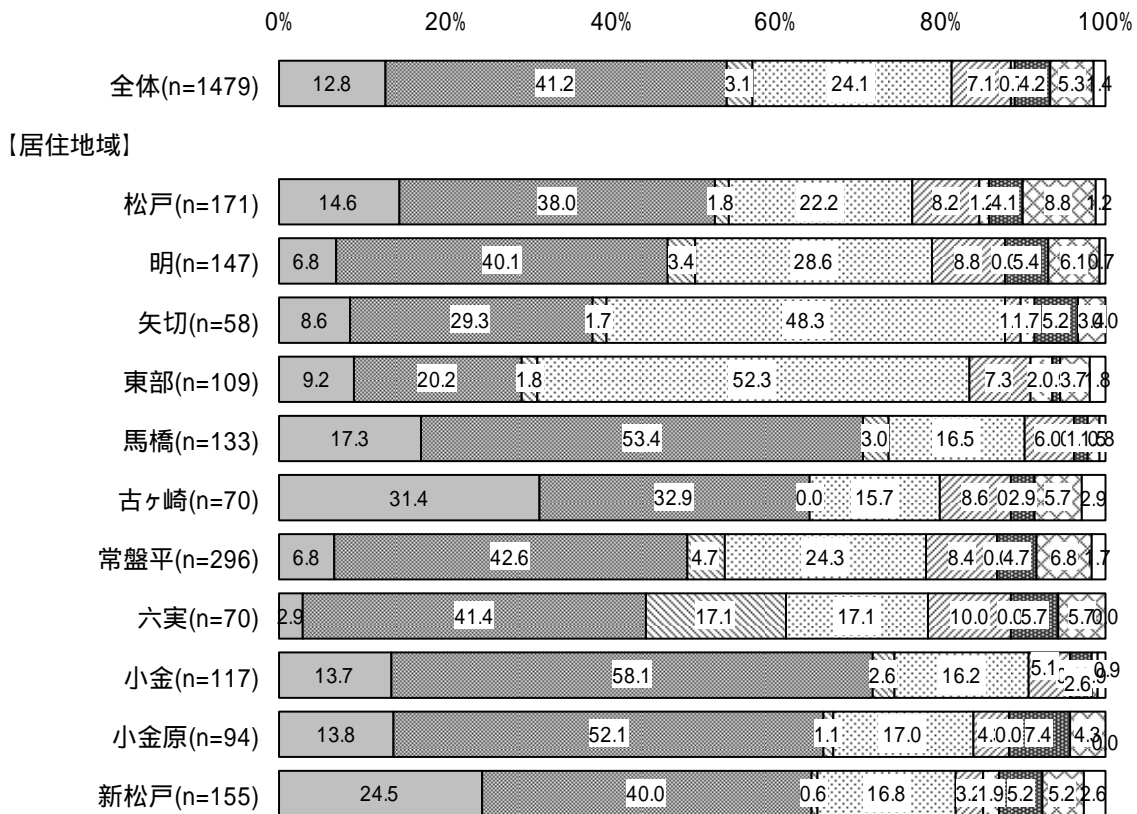
表8 合併しても良いと思う市の一番と二番の関係

区分	7.合併しても良いと思う市 二番							単位:件数		
	合計	柏市	市川市	流山市	船橋市	鎌ヶ谷市	その他	適切な市はない	わからない	無回答
全体	1,479	308	318	277	168	146	20	98	109	35
柏市	610	4	217	234	43	61	4	23	19	5
市川市	357	146	6	23	113	43	8	7	6	5
流山市	190	110	24	6	3	32	4	6	4	1
船橋市	105	30	57	4	0	9	0	1	3	1
鎌ヶ谷市	46	15	11	9	6	1	0	1	2	1
適切な市はない	62	0	1	1	0	0	0	58	1	1
その他	10	2	2	0	1	0	4	1	0	0
わからない	78	1	0	0	2	0	0	0	73	2
無回答	21	0	0	0	0	0	0	1	1	19

7.合併しても良いと思う市 一番

【居住地域別の傾向】

合併相手として一番良いと思う市に「柏市」を選んだ人(41.2%)は、「小金」(58.1%)、「馬橋」(53.4%)、「小金原」(52.1%)が高く、「東部」(20.2%)、「矢切」(29.3%)が低くなっている。合併相手として一番良いと思う市に「市川市」を選んだ人(24.1%)は、「東部」(52.3%)、「矢切」(48.3%)が高く、「古ヶ崎」(15.7%)、「小金」(16.2%)、「馬橋」(16.5%)、「新松戸」(16.8%)、「小金原」(17.0%)、「六実」(17.1%)が低かった。なお、合併相手として一番良いと思う市に「流山市」を選んだ人(12.8%)は、「古ヶ崎」(31.4%)で「柏市」と同程度高かった。



□ 流山市 ■ 柏市 ▨ 鎌ヶ谷市 ▩ 市川市 ▪ 船橋市 □ その他 ▧ 適切な市はない ▩ わからない □ 無回答

図18 属性×合併しても良いと思う市(一番目)

(3) 合併相手を考える際に重視すること

合併相手を選ぶ際に、相手を選ぶ基準となることは何か、重視する点について把握するために以下の問いを設定した。

- 問 8 問 7 で合併相手を考える際に重視した点について、あなたの考えに近いものを次の中から選んでください。(主なもの2つに)
1. イメージが良いから(13.9%)
 2. 立地位置や河川など土地の連続性があるから(40.4%)
 3. 通勤・通学・買い物で行くなどの日常生活でつながりがあるから(37.9%)
 4. 財政状況が良いから(11.5%)
 5. 行政のサービス水準が高いから(9.9%)
 6. まちづくりの方向性が同じであるから(3.5%)
 7. 歴史や文化でのつながりが深いから(6.6%)
 8. 将来的な発展が期待できるから(40.5%)
 9. その他(3.1%)
 10. 特にない(7.6%)
 11. 合併には反対である(5.7%)

合併相手を考える際に重視することについては、「将来的な発展が期待できるから」(40.5%)、「土地の連続性があるから」(40.4%)、「日常生活でつながりがあるから」(37.9%)の3つが高かった。

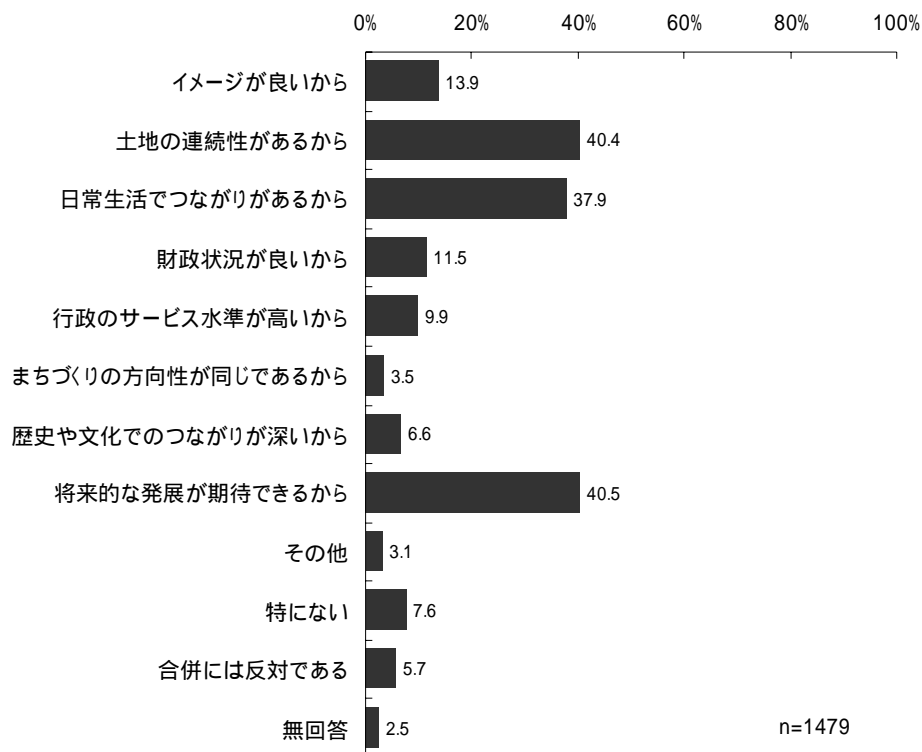


図 1 9 合併相手を考える際に重視すること

【属性別の傾向】

「将来的な発展が期待できるから」、「土地の連続性があるから」、「日常生活でつながりがあるから」の上位の3項目については、各属性においても高かった。

年齢

・「イメージが良いから」や「日常生活のつながりがあるから」については、若い年代において相対的に高かった。

居住地域

・「将来的な発展が期待できるから」は、「明」(53.1%)が高く、「松戸」(32.7%)、「古ヶ崎」(32.9%)が低かった。また、「土地の連続性があるから」では、「古ヶ崎」(51.4%)が高く、「常盤平」(34.8%)と低かった。「日常生活でつながりがあるから」では、「馬橋」(45.1%)で高く、「矢切」(29.3%)が低かった。

表9 属性×合併相手を考える際に重視すること

(%)

属性		件数	イメージが良いから	土地の連続性があるから	日常生活でつながりがあるから	財政状況が良いから	行政のサービス水準が高いから	まちづくりの方向性が同じであるから	歴史や文化でのつながりが深いから	将来的な発展が期待できるから	その他	特にない	合併には反対である	無回答
全体		1,479	13.9	40.4	37.9	11.5	9.9	3.5	6.6	40.5	3.1	7.6	5.7	2.5
性別	女性	757	13.3	36.6	41.9	11.5	10.4	3.0	4.6	41.9	2.9	7.8	6.2	2.4
	男性	682	14.4	45.0	33.3	11.7	9.7	4.1	8.5	39.4	3.4	7.0	5.4	2.5
年齢	15～19歳	46	32.6	4.3	58.7	21.7	2.2	0.0	2.2	23.9	2.2	8.7	10.9	2.2
	20～29歳	147	19.7	32.0	48.3	10.2	4.1	0.7	0.7	40.1	4.8	7.5	8.8	2.0
	30～39歳	243	19.3	38.3	45.3	12.3	10.3	2.1	2.1	37.4	4.5	7.4	5.8	1.6
	40～49歳	214	9.8	41.1	44.9	14.5	11.2	3.7	5.1	41.6	5.1	4.2	2.3	2.8
	50～59歳	218	12.4	44.5	39.0	9.6	8.7	4.1	7.3	39.0	3.2	7.8	7.8	1.8
	60～69歳	333	10.2	44.1	28.8	11.1	12.3	5.1	9.3	45.6	2.4	7.2	5.4	2.7
	70歳以上	239	10.9	46.4	24.7	9.2	12.1	4.6	11.7	41.8	0.4	10.0	5.0	3.3
居住地域	松戸	171	13.5	44.4	38.6	9.4	7.0	4.7	10.5	32.7	3.5	6.4	8.2	0.6
	明	147	12.9	36.7	31.3	10.2	10.2	0.7	5.4	53.1	2.0	14.3	5.4	1.4
	矢切	58	5.2	39.7	29.3	12.1	17.2	6.9	8.6	41.4	1.7	3.4	8.6	3.4
	東部	109	15.6	42.2	39.4	11.9	20.2	0.0	3.7	38.5	4.6	5.5	4.6	2.8
	馬橋	133	12.0	43.6	45.1	12.8	5.3	4.5	9.8	37.6	4.5	4.5	5.3	2.3
	古ヶ崎	70	14.3	51.4	42.9	8.6	4.3	2.9	5.7	32.9	5.7	5.7	4.3	1.4
	常盤平	296	13.5	34.8	31.1	16.2	12.2	5.4	5.7	42.2	2.4	11.1	5.4	2.4
	六実	70	11.4	44.3	42.9	8.6	10.0	2.9	2.9	42.9	0.0	8.6	7.1	4.3
	小金	117	15.4	45.3	42.7	13.7	5.1	0.9	7.7	42.7	2.6	2.6	4.3	2.6
	小金原	94	11.7	42.6	44.7	8.5	9.6	2.1	7.4	42.6	0.0	6.4	7.4	2.1
	新松戸	155	18.7	37.4	40.0	9.0	9.0	4.5	4.5	41.9	5.8	5.8	5.2	3.2

網掛けは上位3項目

【合併しても良いと思う市（問7）一番目とのクロス集計】

合併しても良いと思う市(問7)の一番目とのクロス集計をみると、上位4つの市をみると、合併相手として一番良いと思う市に「柏市」を選んだ人は「日常生活でつながりがあるから」(52.3%)、「市川市」を選んだ人は「将来的な発展が期待できるから」(43.1%)、「流山市」を選んだ人は「土地の連続性があるから」(62.6%)、「船橋市」を選んだ人は「将来的な発展が期待できるから」(51.4%)が最も高かった。

表10 問7×合併相手を考える際に重視すること

区分		件数	イメージが良いから	土地の連続性があるから	日常生活でつながりがあるから	財政状況が良いから	行政のサービス水準が高いから	まちづくりの方向性が同じであるから	歴史や文化でのつながりが深いから	将来的な発展が期待できるから	その他	特にない	合併には反対である	無回答
全体		1,479	13.9	40.4	37.9	11.5	9.9	3.5	6.6	40.5	3.1	7.6	5.7	2.5
合併しても良いと思う市(一番目)	流山市	190	9.5	62.6	35.8	6.3	6.8	4.2	11.6	38.4	3.2	4.2	4.2	1.1
	柏市	610	15.7	46.9	52.3	8.4	6.2	4.3	5.6	44.8	1.8	5.1	1.1	0.2
	鎌ヶ谷市	46	6.5	32.6	41.3	4.3	8.7	4.3	10.9	54.3	6.5	10.9	4.3	2.2
	市川市	357	18.5	41.5	30.3	16.5	18.5	2.2	8.7	43.1	2.2	5.0	1.7	1.1
	船橋市	105	18.1	21.0	37.1	31.4	17.1	2.9	1.9	51.4	3.8	2.9	1.0	1.0
	その他	10	30.0	20.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	30.0	0.0
	適切な市はない	62	1.6	1.6	0.0	4.8	1.6	4.8	1.6	3.2	1.6	22.6	75.8	3.2
	わからない	78	0.0	1.3	3.8	9.0	5.1	2.6	3.8	12.8	16.7	42.3	11.5	17.9

網掛けは上位3項目

4. 合併・政令指定都市に関する自由意見

問9 合併や政令指定都市について、ご意見がございましたら、以下にご記入ください。

1,479名のうち、388名(26.2%)の合併や政令指定都市に関する意見・要望の記述があり、以下の項目別に整理した。自由意見については、全てデータ集に掲載

分類	意見数	主な意見
1. 本調査に関する意見・要望	58件	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの内容だけでは説明が不足 ・もっと多くの市民を対象にすべき
2. 合併や政令指定都市に関する意見・要望	277件	
合併・政令指定都市移行に賛成	(130件)	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸市の現在の課題や将来を考えると政令指定都市を目指すことは必要 ・合併によって、行政運営の効率化やまちの活性化、行政サービスが向上することを期待する ・発展が期待できる市との合併を期待する ・合併しても松戸の名前は残してほしい
合併・政令指定都市移行に反対	(38件)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の名称が変わることや長年住んで松戸に愛着があるので反対 ・政令指定都市を目指す必要性が感じられない ・合併により財政負担が増えるなどデメリットが多い
その他	(109件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国政の動向をみながら検討していったほうが良い ・合併・政令指定都市移行のメリット・デメリットがわからない ・合併や政令指定都市移行での課題解決を目指すのではなく、各市の自助努力で解決すべき
3. 市政に対する意見・要望	102件	<ul style="list-style-type: none"> ・合併より先に、議員や職員の削減など行政運営の効率化が必要 ・税金など財政負担を減らしてほしい
4. その他	9件	

III 回答者の属性

1. 市政に対する態度

(1) 市政への関心度

合併や政令指定都市に関する意識や態度に影響を及ぼすと考えられる要素として、市政への関心度を把握するため、以下の問いを設けた。

問 10 あなたは日頃、市役所からの情報やまちづくりなど松戸市の施策に関心がありますか。(1つに)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 関心がある(21.1%) | 2. ある程度関心がある(47.4%) |
| 3. どちらともいえない(14.3%) | 4. あまり関心はない(11.6%) |
| 5. 全く関心はない(1.9%) | 6. わからない(0.3%) |

市政への関心度については、「ある程度関心がある」(47.4%)が最も高く、「関心がある」(21.1%)を合わせると 68.5%となっている。また「あまり関心がない」、「全く関心はない」はそれぞれ 11.6%、1.9%であった。

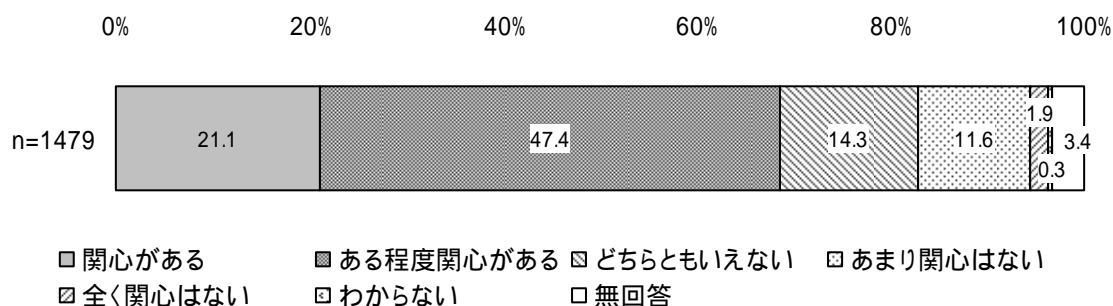


図 20 市政への関心度

【属性別の傾向】

「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた「関心度が高い」グループの割合について属性別の傾向を見た。

性別

・性別では、関心度の高低にほとんど差がない結果となった。

年齢

・年齢別では「関心度が高い」が「若年層」(15~29歳)で低く、年齢が高くなるにつれて関心度が高い割合を示す傾向にある。

職業

・職業別では、「公務員」(81.5%)、「収入のある職についていない」(78.8%)、「自営業」(76.2%)が高く、「会社員」(62.8%)、学生(30.4%)が低かった。

(2) 市政情報の入手方法

合併や政令指定都市に関する研究内容について、どのような手段での情報提供が効果的か把握するために、市政情報の入手方法を問う設問を設定した。

問 11 あなたは、松戸市の行政情報を主に何によって入手しているかお答えください。(主なもの3つに)

1. 広報誌(広報まつど)(80.7%)
2. 松戸市のホームページ(20.6%)
3. 各種パンフレット(28.9%)
4. 町会などでの集会や会合(16.1%)
5. 市が主催する説明会など(3.1%)
6. テレビ・ラジオ(9.1%)
7. 新聞・雑誌(32.9%)
8. その他(4.6%)
9. 特にない(12.2%)

市政情報の入手方法については、「広報誌」が80.7%を占めて高く、これに「新聞・雑誌」(32.9%)、「各種パンフレット」(28.9%)、「松戸市のホームページ」(20.6%)、「町会などでの集会や会合」(16.1%)、「テレビ、ラジオ」(9.1%)、「市が主催する説明会など」(3.1%)が続いている。

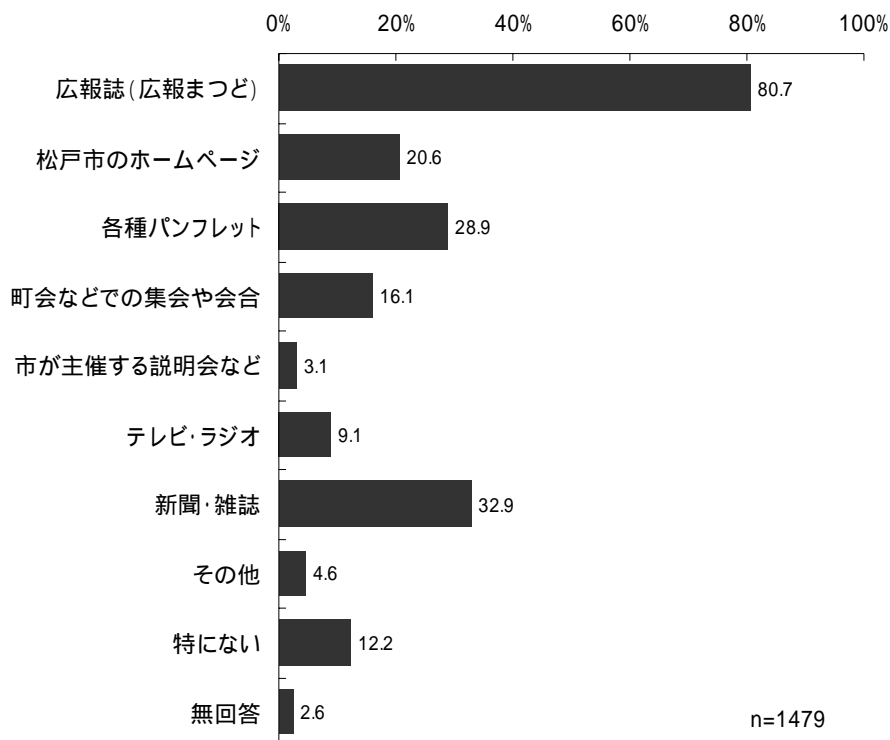


図 2 1 市政情報の入手方法

【属性別の傾向】

年齢

- ・全体で最も回答が多かった「広報誌」では、年齢が高くなるほど高い割合を示す傾向にある。
- ・「松戸市のホームページ」では、「30～39歳」(36.2%)、「40～49歳」(30.8%)が高く、50歳以上で低い割合であった。
- ・また「各種パンフレット」では、「20～29歳」(18.4%)が低かった。

職業

- ・職業別では「広報誌」がどの職業でも最も高い割合を示しているが、「学生」(52.2%)は全体に比べ低い結果となった。
- ・「松戸市のホームページ」では、「会社員」(28.2%)と「公務員」(33.8%)が高い特徴があった。
- ・自営業では、「町会などでの集会や会合」(27.7%)が全体に比べ高かった。

表11 属性×市政情報の入手方法

属性		件数	広報誌 (広報まつど)	松戸市の ホームページ	各種 パンフレット	町会など での集会や 会合	市が主催 する説明会 など	テレビ・ ラジオ	新聞・ 雑誌	その他	特 に な い	無 回 答
全体		1,479	80.7	20.6	28.9	16.1	3.1	9.1	32.9	4.6	12.2	2.6
年齢	15～19歳	46	54.3	19.6	23.9	0.0	2.2	23.9	34.8	2.2	28.3	0.0
	20～29歳	147	60.5	26.5	18.4	5.4	1.4	8.2	27.9	2.7	32.7	0.0
	30～39歳	243	78.2	36.2	23.9	10.3	0.8	7.8	36.6	6.2	16.9	0.0
	40～49歳	214	82.2	30.8	30.8	15.4	0.9	9.3	30.8	5.1	8.9	0.0
	50～59歳	218	87.2	15.1	32.1	19.3	2.3	8.7	37.6	6.4	10.1	0.5
	60～69歳	333	91.6	13.2	33.6	19.2	4.8	9.0	31.8	4.5	6.3	0.0
	70歳以上	239	90.0	10.5	34.7	26.8	7.5	9.6	35.6	3.3	7.1	1.3
職業	会社員	411	75.7	28.2	26.3	9.0	1.5	8.3	32.1	5.4	15.6	1.5
	公務員	65	86.2	33.8	29.2	6.2	3.1	10.8	30.8	3.1	6.2	4.6
	自営業	101	87.1	12.9	24.8	27.7	3.0	11.9	34.7	6.9	8.9	0.0
	臨時雇用	161	82.6	18.0	32.3	21.1	0.0	11.2	36.6	3.7	14.3	2.5
	その他の職業	71	80.3	26.8	32.4	19.7	1.4	11.3	35.2	11.3	9.9	2.8
	学生	69	52.2	15.9	26.1	4.3	2.9	15.9	34.8	1.4	30.4	1.4
	収入のある職にない	476	87.8	16.4	32.6	20.4	5.5	6.9	33.6	3.6	7.6	2.5

網掛けは上位3項目

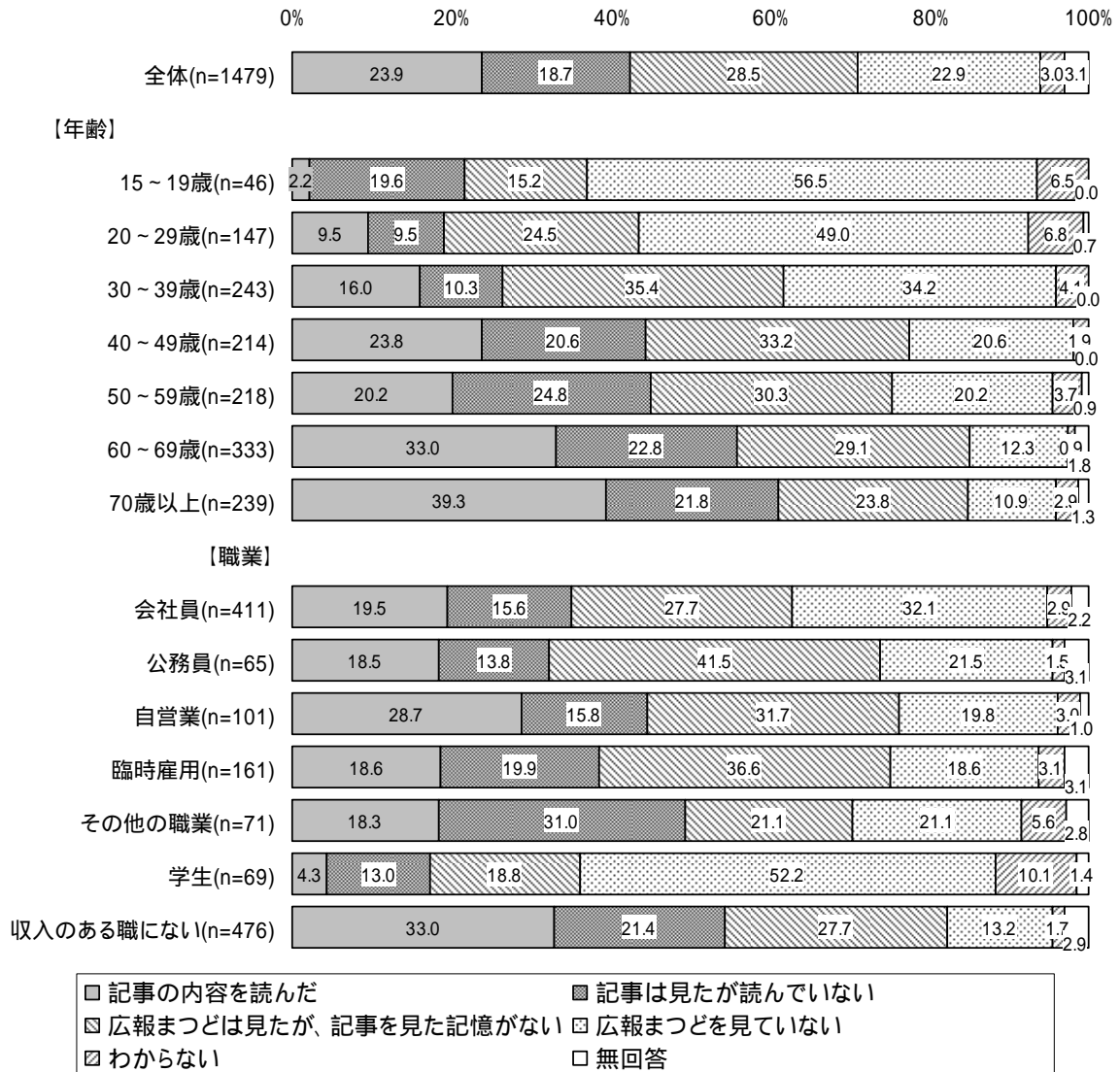


図 2 3 属性×広報まつど「合併・政令指定都市に関する特集」の認知度

4. 基本的な属性

回答者の基本的な属性を把握するため、性別や年齢、職業以外にも合併・政令指定都市に関する意識や態度に影響を及ぼすと考えられる要素として、居住パターン、居住期間、居住地域、定住意向を基本属性として以下のように問いを設けた。

(1) 性別

F 1 あなたの性別を教えてください。(1つに)
 1 . 女性(51.2%) 2 . 男性(46.1%)

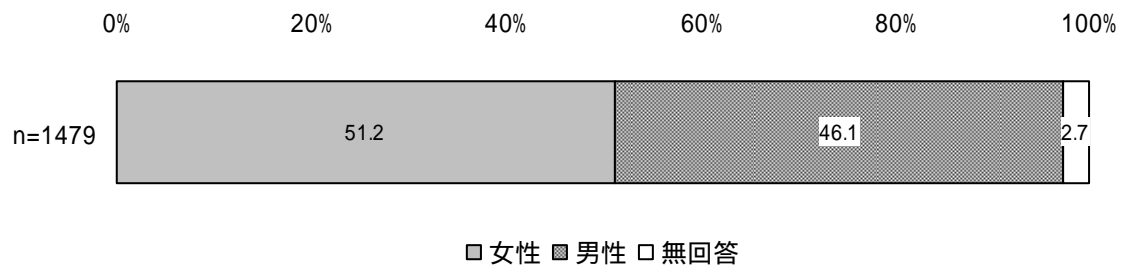


図 2 4 性別

(2) 年齢

F 2 あなたの年齢を教えてください。(1つに)
 1 . 15 ~ 19 歳(3.1%) 2 . 20 ~ 29 歳(9.9%) 3 . 30 ~ 39 歳(16.4%)
 4 . 40 ~ 49 歳(14.5%) 5 . 50 ~ 59 歳(14.7%) 6 . 60 ~ 69 歳(22.5%)
 7 . 70 歳以上(16.2%)

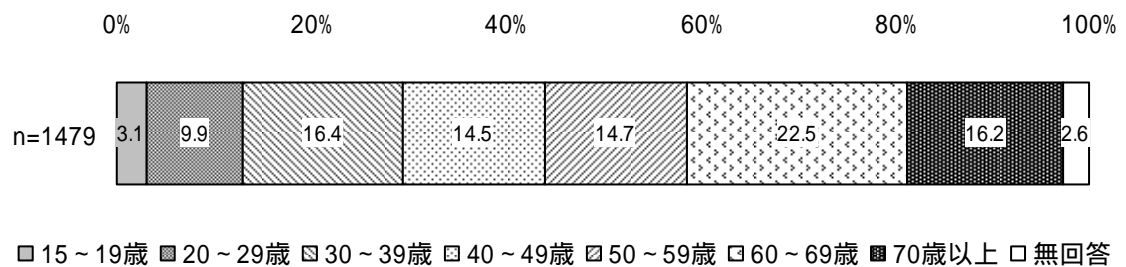


図 2 5 年齢

(3) 居住パターン

F3 あなたは松戸市にずっとお住まいですか。あてはまるものをお答えください。(1つに)

1. 生まれてからずっと松戸(15.6%)
2. 生まれは松戸だが、他に転出し、再び引っ越してきた(4.6%)
3. 他から引っ越してきた(77.2%)

「他から引っ越してきた」が 77.2%と非常に多く、「生まれは松戸だが、他に転出し、再び引っ越してきた」を含めると 80%以上の人が他から引っ越してきたことになる。

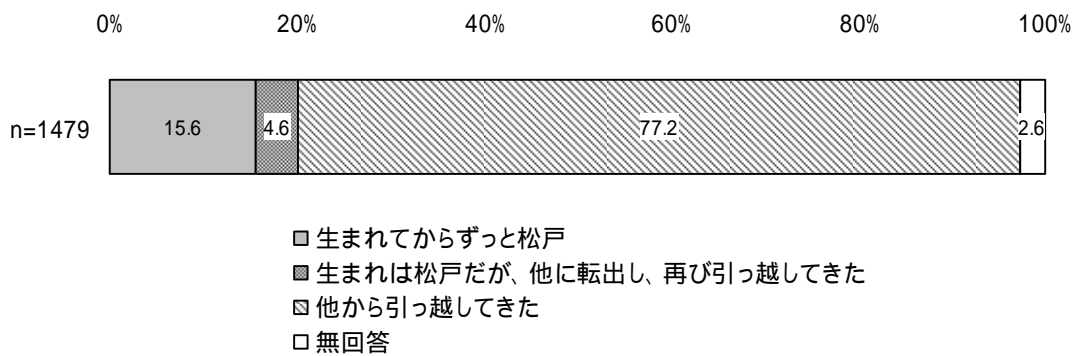


図26 居住パターン

【年齢別の傾向】

・「生まれてからずっと松戸」は若い年代「15～39歳」で高い傾向にあり、50歳以上の年代では約90%が「他から引っ越してきた」であった。

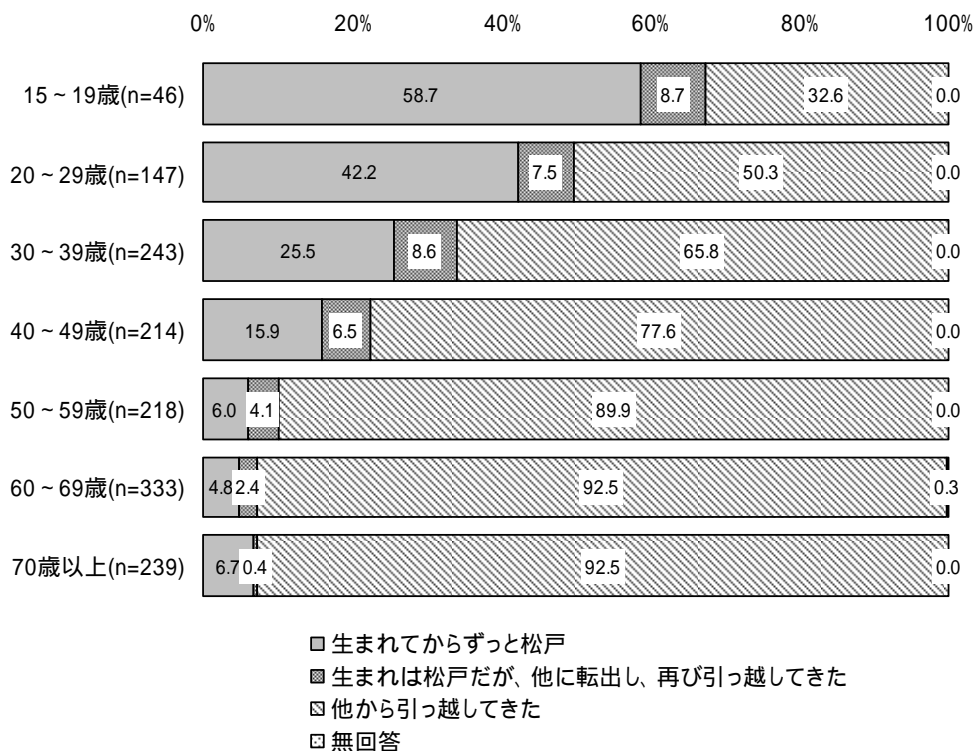


図27 年齢×居住パターン

(4) 居住年数

F4 松戸市にお住まいになって何年(通算)になりますか。(1つに)	
1. 10年未満(18.4%)	2. 10年以上20年未満(18.0%)
3. 20年以上30年未満(19.7%)	4. 30年以上40年未満(24.2%)
5. 40年以上(16.8%)	

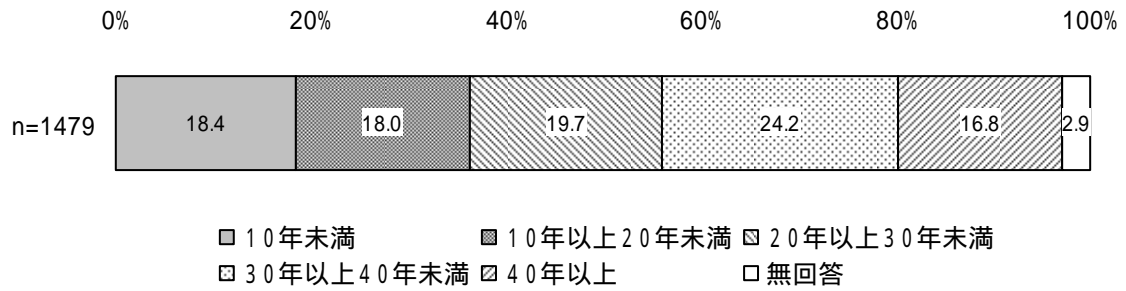


図28 居住年数

【居住地域別の傾向】

・「10年未満」では「東部」(34.9%)が全体に比べて高いなど、地域性が確認できた。

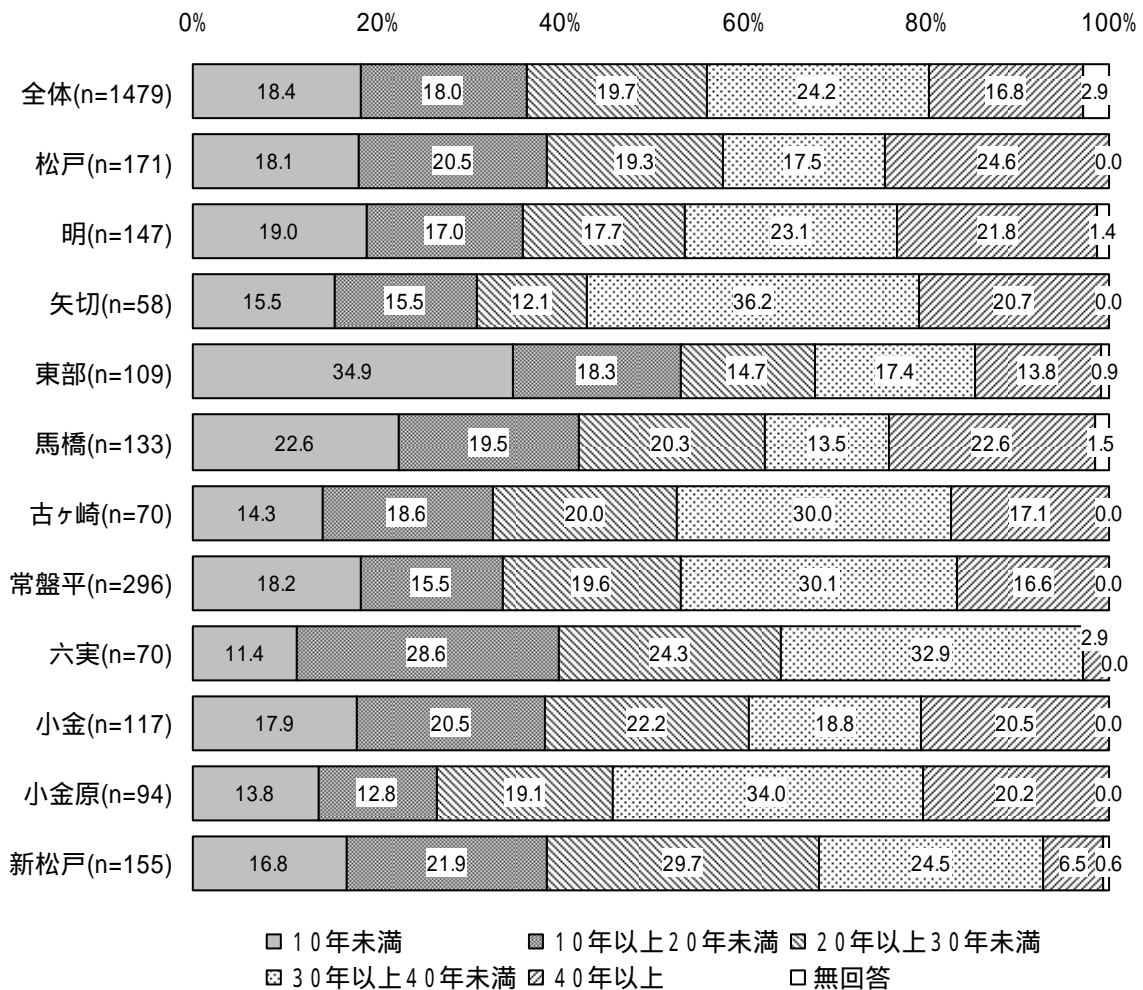


図29 居住地域×居住年数

(5) 居住地域

F5 あなたのお住まいの住所を教えてください。(分からない場合は、下の地図からお住まいの地域の番号に をしてください)

〒

地域	発送数	回収数	回収率(%)
本庁	1.松戸	171	48.3
	2.明	70	
	6.古ヶ崎	147	
3.矢切	154	58	37.7
4.東部	214	109	50.9
5.馬橋	268	133	49.6
7.常盤平	565	296	52.4
8.六実	191	70	36.6
9.小金	260	117	45.0
10.小金原	196	94	48.0
11.新松戸	349	155	44.4
無回答	-	59	-
計	3,000	1,479	49.3

(6) 職業

F6 あなたのご職業をお答えください。(1つに)

1. 会社員(27.8%) 2. 公務員(教員、団体職員含む)(4.4%)

3. 自営業(農業含む)(6.8%) 4. 臨時雇用(パートなど)(10.9%)

5. その他の職業(4.8%) 6. 学生(4.7%)

7. 収入のある職についていない(32.2%)

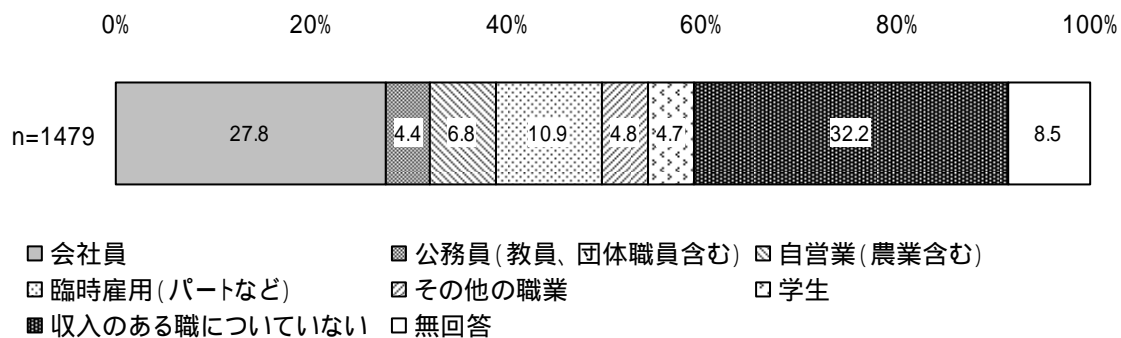


図30 職業

(7) 定住意向

F7 あなたは、これからも松戸市に住み続けたいと思いますか。(1つに)	
1. そう思う(51.2%)	2. ある程度そう思う(23.0%)
3. どちらともいえない(10.6%)	4. あまり思わない(4.3%)
5. 全く思わない(1.1%)	6. わからない(2.6%)

定住意向については、「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせると74.2%と住み続けたいと思う人が多い結果となった。

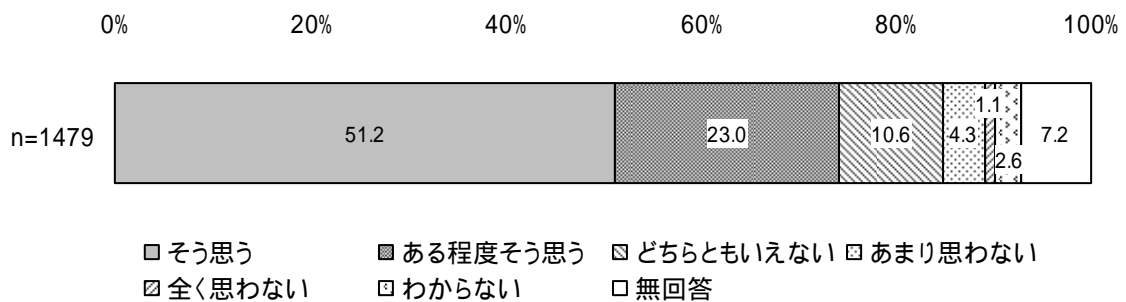


図3 1 定住意向

【属性別の傾向】

性別

・女性と男性とでは定住意向にほとんど差が見られない。

年齢

・10代を除いて、年齢が高くなるにつれて「そう思う」が高くなり、定住意向が強くなる傾向が見られた。

居住地域

・「そう思う」では、「矢切」(60.3%)、「常盤平」(56.8%)、「明」(55.8%)で定住意向が高かった。

居住パターン

・生まれが松戸であるか、他から引っ越してきたでは定住意向に大きな違いは見られなかった。

居住年数

・「そう思う」は、年数が多くなるにつれて高くなり、「40年以上」では76.3%であった。

職業

・「そう思う」は「自営業」(67.3%)、「収入のある職についていない」(64.7%)と全治に比べ高い結果となった。

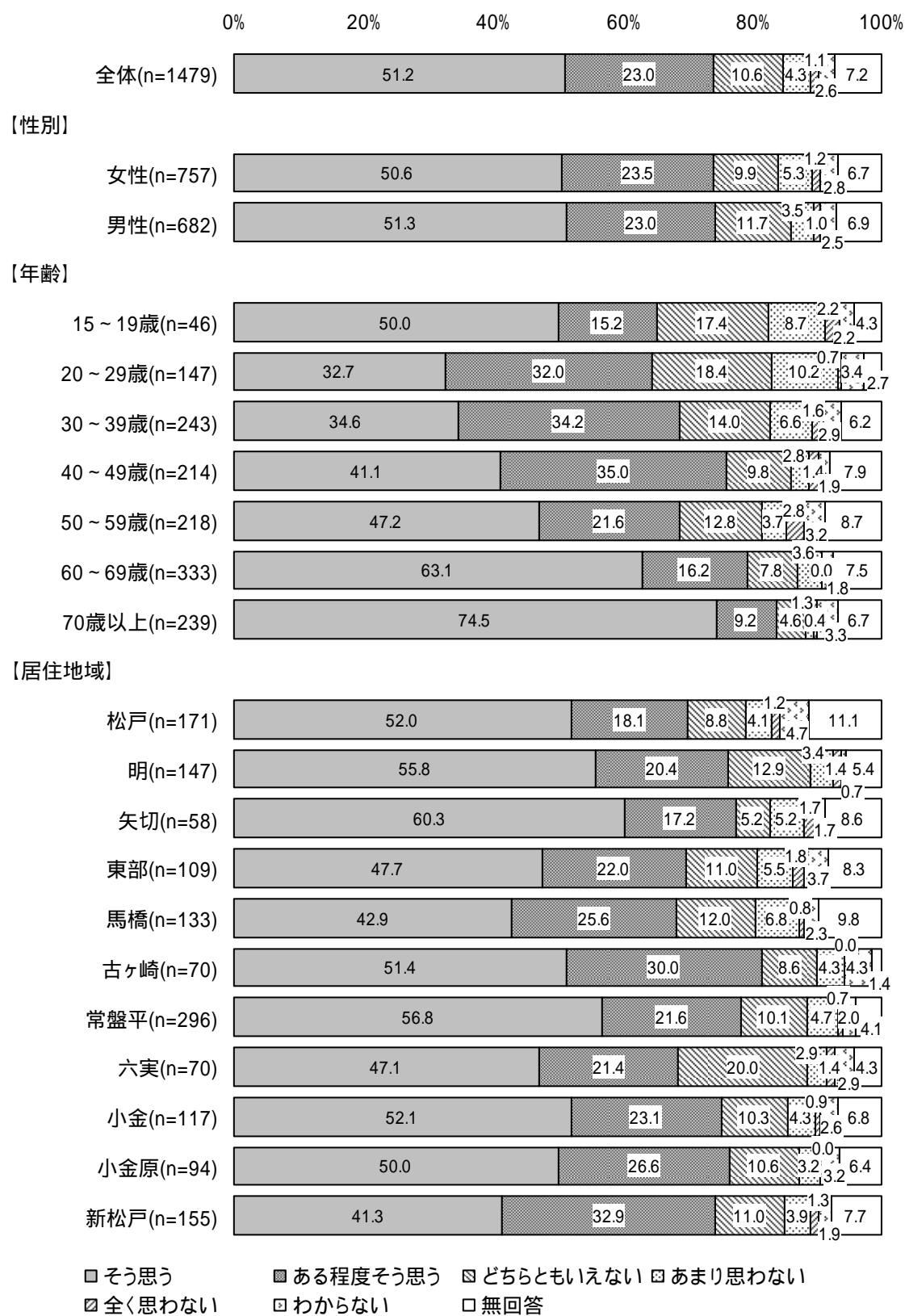
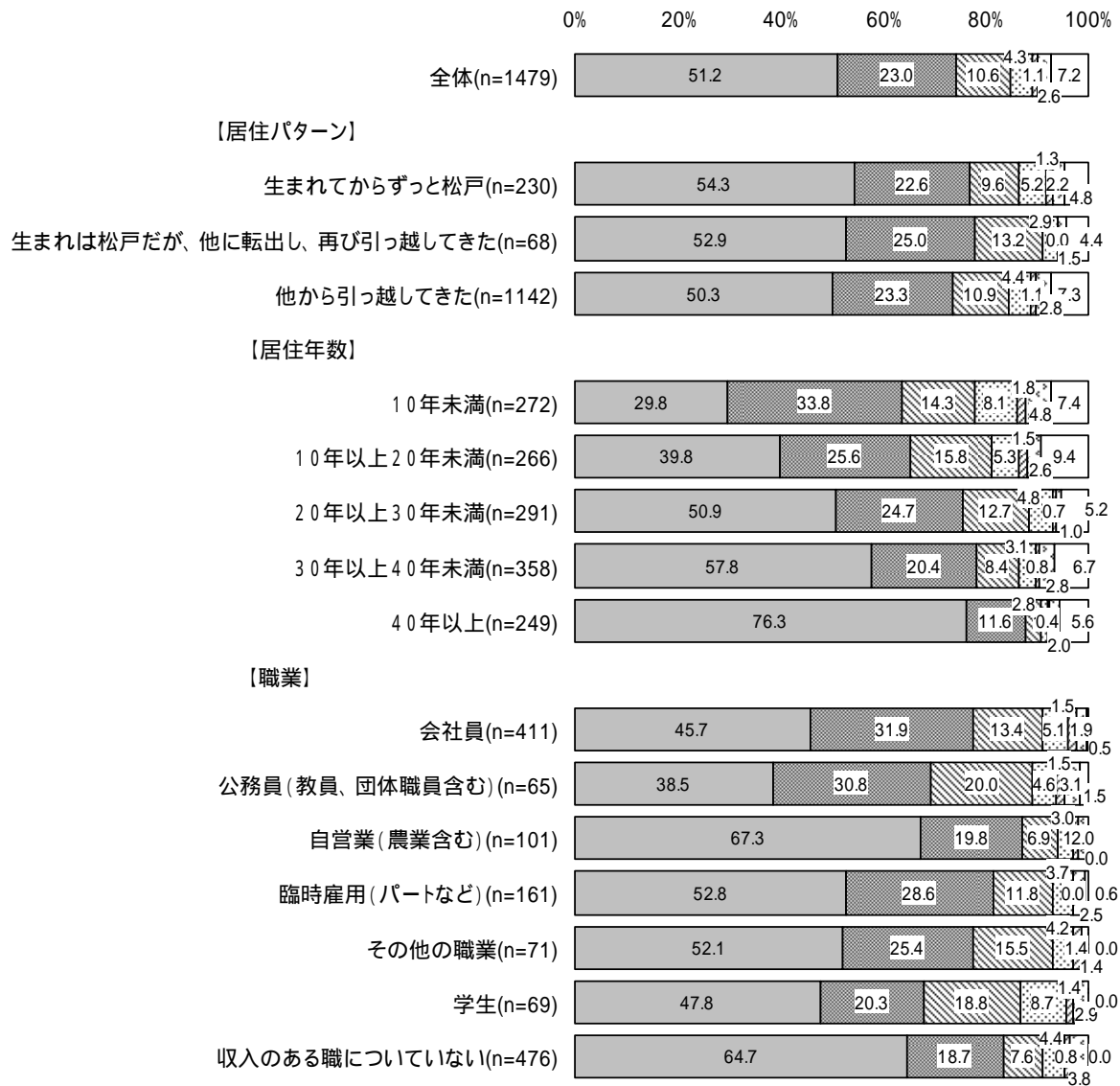


図3 2 性別、年齢、居住地域 × 定住意向



□ そう思う ■ ある程度そう思う ▨ どちらともいえない ▩ あまり思わない □ 全く思わない □ わからない □ 無回答

図 3 3 居住パターン、居住年数、職業 × 定住意向

IV 資料

1. 調査票

合併・政令指定都市に関する市民意識調査票

アンケート調査へのご協力をお願い

日頃より、市政にご協力いただきましてありがとうございます。

松戸市では、市民の皆様にとって住みよい・魅力あふれるまちづくりを進めるために、将来のひとつの選択肢として、合併や政令指定都市に関して、調査・研究を行ってまいりました。

このたび松戸市にお住まいの3,000人の皆様のご意見をお聞かせいただきたく、アンケート調査を実施させていただきます。

この調査は、市民の皆様の意向を把握し、今後の政策判断を行う際の資料として参考にさせていただくことを目的に行うものです。

調査の実施にあたりましては、住民基本台帳から満15歳以上の方を無作為に抽出して、調査対象とさせていただきました。

調査結果につきましては、すべて統計的に処理し、市が実施する調査の目的以外には使用いたしませんので、皆様のプライバシーが侵害されることは一切ありません。ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

大変お忙しい中、誠に恐縮に存じますが、ご協力をお願いいたします。

平成21年10月

松戸市長 川井 敏久

ご回答にあたって

1. ご回答は、宛名のご本人様をお願いいたします。
2. ご回答は、設問の指示に従い、あてはまる番号を 印で囲んでください。
3. 松戸市がこれまで行ってきた、合併や政令指定都市に関する調査研究については、同封パンフレットに概要を掲載してございます。詳細については、インターネットをご利用の方は、松戸市ホームページ；市政情報＞審議会・研究会＞研究会からご覧いただけます。インターネットをご利用でない方は、松戸市役所行政資料センターで閲覧が可能です。詳しくは、政策調整課までお問い合わせください。
4. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、10月22日(木曜日)までにご返送ください。切手を貼る必要はございません。
5. その他、ご不明な点、この調査に関するご質問などがございましたら、政策調整課までお問い合わせください。

< 問い合わせ先 >

松戸市 総務企画本部 政策調整課

電話 047-366-7072 Fax 047-366-1204

Email mcseisaku@city.matsudo.chiba.jp

まず、同封のパンフレット「これからの松戸を考えるために！合併や政令指定都市移行について」をお読みいただいた上でご回答ください。

問1．あなたは、「平成の大合併」など、国が進めている地方分権の動きについて、関心がありますか。(1つに)

- 1．大いに関心がある(12.4%) 2．ある程度関心がある(49.0%)
 3．どちらともいえない(16.2%) 4．あまり関心はない(11.9%)
 5．全く関心はない(3.1%) 6．わからない(2.0%)

問2．パンフレットでは、松戸市が行ってきた合併や政令指定都市移行の調査研究について説明していますが、内容はわかりましたでしょうか。次のア～オの項目ごとにお答えください。(それぞれの番号1つに)

	よく理解できた	ある程度理解できた	少しは理解できた	全く理解できなかった	わからない
ア．国が「平成の大合併」を進める理由	1 (15.8%)	2 (42.9%)	3 (31.0%)	4 (3.2%)	5 (5.0%)
イ．合併・政令指定都市移行によって期待されること	1 (11.8%)	2 (43.2%)	3 (33.3%)	4 (3.9%)	5 (5.1%)
ウ．合併・政令指定都市移行によって懸念されること	1 (12.7%)	2 (39.6%)	3 (34.6%)	4 (3.4%)	5 (6.8%)
エ．松戸市が抱える将来の課題	1 (22.7%)	2 (42.5%)	3 (25.6%)	4 (1.8%)	5 (4.7%)
オ．松戸市が合併や政令指定都市移行について調査研究する理由	1 (18.3%)	2 (41.4%)	3 (30.4%)	4 (2.6%)	5 (4.5%)

問3．松戸市が近隣のどこかの市と合併して、政令指定都市を目指すとしたら、あなたはごどう思ひますか。(1つに)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1．賛成(23.5%) | 2．どちらかといえは賛成(29.3%) |
| 3．どちらともいえない(28.5%) | 4．どちらかといえは反対(8.0%) |
| 5．反対(5.4%) | 6．わからない(3.0%) |

問4．松戸市が合併し、政令指定都市に移行すると仮定した場合、ごどのようなことを期待しますか。あなたの考えに近いものを、次の中から選んでください。(主なもの2つに)

- 1．市のイメージアップが図られることから、まちの魅力、にぎわいが増す(20.6%)
- 2．区役所の設置や他市の公共施設が使えるなど、利便性が向上する(19.0%)
- 3．区を単位とした行政運営により、住民の声を反映しやすくなる(8.5%)
- 4．国や県から自立することから、市独自の政策が打ち出せることや手続のスピードアップが図られる(28.4%)
- 5．議員数・職員数が削減されることや公共施設の効率的な配置など、行政機能の効率化が図られる(37.9%)
- 6．他市との合併により財政規模が大きくなり、新たな財源が入ることから財政基盤が強化される(32.7%)
- 7．防災や医療等の諸課題に、市域の枠を超えて広域的に対応できる(24.8%)
- 8．その他(2.9%)
- 9．特にない(7.0%)
- 10．わからない(4.4%)

問5．松戸市が合併し、政令指定都市に移行すると仮定した場合、ごどのようなことが心配ですか。あなたの考えに近いものを、次の中から選んでください。(主なもの2つに)

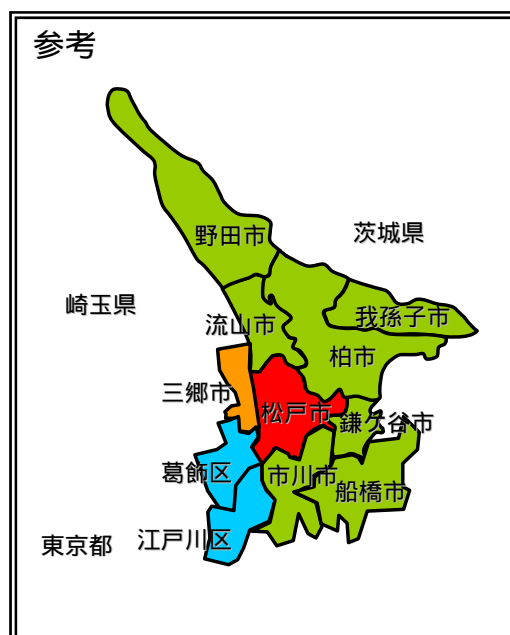
- 1．市の名前が変わってしまい、地域への愛着などが低下する(28.7%)
- 2．市役所が遠くなるなど利便性が低下する(24.1%)
- 3．市域の拡大によって、住民の声を反映が難しくなる(23.5%)
- 4．行政サービスの質や水準が低下する(25.4%)
- 5．他市の借金や県の事業などを引き受けることで、財政負担が増加する(36.9%)
- 6．市域の中での地域間格差(新市役所が置かれなかった地域が寂れるなど)が生じる(26.3%)
- 7．地域の文化や伝統、個性や特徴が失われる(9.9%)
- 8．その他(2.2%)
- 9．特にない(6.6%)
- 10．わからない(4.1%)

問6．松戸市の合併について、次のア～ウの3つのケースを想定した場合、それぞれのケースに対するあなたの考えを項目ごとにお答えください。(それぞれの番号1つに)

	賛成する	どちらかといえば賛成する	どちらともいえない	どちらかといえば反対する	反対する	わからない
ア．松戸市からみて北側の東葛地域で合併して政令指定都市を目指す。 (柏市、流山市など)	1 (16.6%)	2 (25.7%)	3 (24.7%)	4 (11.5%)	5 (10.6%)	6 (5.6%)
イ．松戸市からみて南側の葛南地域で合併して政令指定都市を目指す。 (市川市、船橋市など)	1 (13.9%)	2 (21.8%)	3 (25.9%)	4 (14.3%)	5 (11.6%)	6 (5.9%)
ウ．東葛、葛南地域の両方と合併して政令指定都市を目指す。 (柏市、市川市など)	1 (13.3%)	2 (21.6%)	3 (29.1%)	4 (13.2%)	5 (10.3%)	6 (5.9%)

問7．仮に、松戸市が近隣の市と合併して政令指定都市を目指すとした場合、あなたが合併しても良いと思う市はどこですか。一番目と二番目に分けてお答えください。(それぞれの番号1つに)

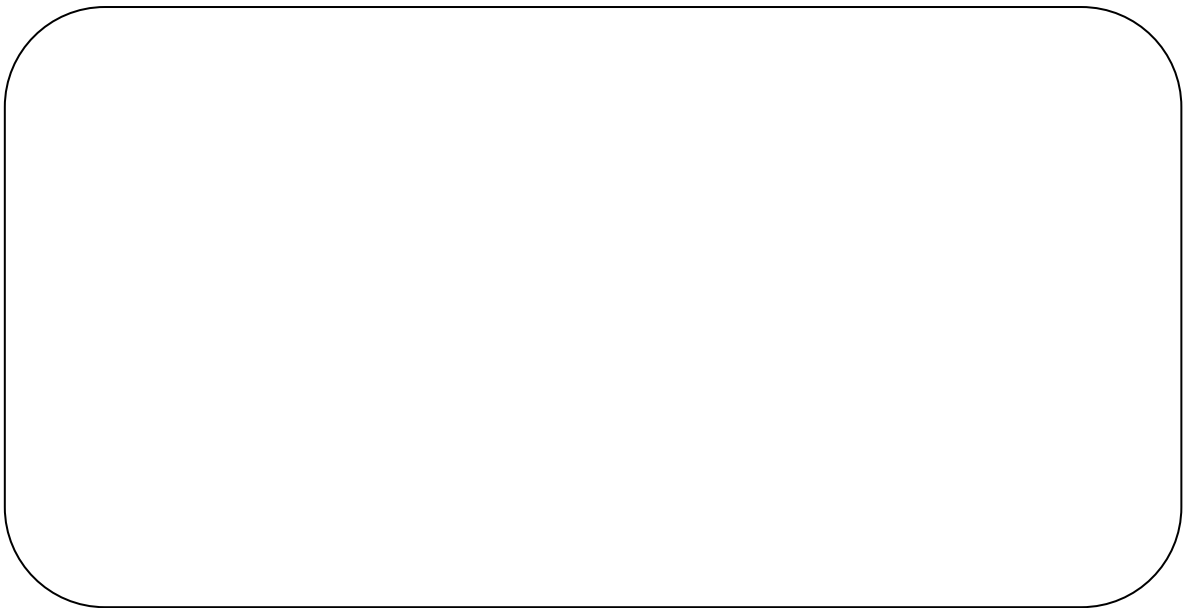
一番目に良いと思う市	二番目に良いと思う市
1．流山市(12.8%)	1．流山市(18.7%)
2．柏市(41.2%)	2．柏市(20.8%)
3．鎌ヶ谷市(3.1%)	3．鎌ヶ谷市(9.9%)
4．市川市(24.1%)	4．市川市(21.5%)
5．船橋市(7.1%)	5．船橋市(11.4%)
6．その他(0.7%)	6．その他(1.4%)
7．適切な市はない(4.2%)	7．適切な市はない(6.6%)
8．わからない(5.3%)	8．わからない(7.4%)



問8 . 問7で合併相手を考える際に重視した点について、あなたの考えに近いものを次の中から選んでください。(主なもの2つに)

- 1 . イメージが良いから(13.9%)
- 2 . 立地位置や河川など土地の連続性があるから(40.4%)
- 3 . 通勤・通学・買い物で行くなどの日常生活でつながりがあるから(37.9%)
- 4 . 財政状況が良いから(11.5%)
- 5 . 行政のサービス水準が高いから(9.9%)
- 6 . まちづくりの方向性が同じであるから(3.5%)
- 7 . 歴史や文化でのつながりが深いから(6.6%)
- 8 . 将来的な発展が期待できるから(40.5%)
- 9 . その他(3.1%)
- 10 . 特にない(7.6%)
- 11 . 合併には反対である(5.7%)

問9 . 合併や政令指定都市について、ご意見がございましたら、以下にご記入ください。



次に、市役所からの情報についておたずねします。

問10 . あなたは日頃、市役所からの情報やまちづくりなど松戸市の施策に関心がありますか。(1つに)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 . 関心がある(21.1%) | 2 . ある程度関心がある(47.4%) |
| 3 . どちらともいえない(14.3%) | 4 . あまり関心はない(11.6%) |
| 5 . 全く関心はない(1.9%) | 6 . わからない(0.3%) |

問11 . あなたは、松戸市の行政情報を主に何によって入手しているかお答えください。(主なもの3つに)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 . 広報誌(広報まつど)(80.7%) | 2 . 松戸市のホームページ(20.6%) |
| 3 . 各種パンフレット(28.9%) | 4 . 町会などでの集会や会合(16.1%) |
| 5 . 市が主催する説明会など(3.1%) | 6 . テレビ・ラジオ(9.1%) |
| 7 . 新聞・雑誌(32.9%) | 8 . その他(4.6%) |
| 9 . 特にない(12.2%) | |

問12 . 広報まつどの8月1日号と15日号で合併や政令指定都市に関する特集を掲載しましたが、あなたはお読みにになりましたか。(1つに)

- | |
|---------------------------------|
| 1 . 記事の内容を読んだ(23.9%) |
| 2 . 記事は見たが読んでいない(18.7%) |
| 3 . 広報まつどは見たが、記事を見た記憶がない(28.5%) |
| 4 . 広報まつどを見ていない(22.9%) |
| 5 . わからない(3.0%) |

最後に、あなた自身についておたずねします。

F 1 . あなたの性別を教えてください。(1 つに)

- 1 . 女性(51.2%) 2 . 男性(46.1%)

F 2 . あなたの年齢を教えてください。(1 つに)

- 1 . 15～19 歳(3.1%) 2 . 20～29 歳(9.9%) 3 . 30～39 歳(16.4%)
 4 . 40～49 歳(14.5%) 5 . 50～59 歳(14.7%) 6 . 60～69 歳(22.5%)
 7 . 70 歳以上(16.2%)

F 3 . あなたは松戸市にずっとお住まいですか。あてはまるものをお答えください。
 (1 つに)

- 1 . 生まれてからずっと松戸(15.6%)
 2 . 生まれは松戸だが、他に転出し、再び引っ越してきた(4.6%)
 3 . 他から引っ越してきた(77.2%)

F 4 . 松戸市にお住まいになって何年 (通算) になりますか。(1 つに)

- 1 . 10 年未満(18.4%) 2 . 10 年以上 20 年未満(18.0%)
 3 . 20 年以上 30 年未満(19.7%) 4 . 30 年以上 40 年未満(24.2%)
 5 . 40 年以上(16.8%)

F 5 . あなたのお住まいの住所の郵便番号 (7 桁) を教えてください。

(分からない場合は、下の地図からお住まいの地域の番号に をしてください)

〒

1.松戸	11.6%
2.明	9.9%
3.矢切	3.9%
4.東部	7.4%
5.馬橋	9.0%
6.古ヶ崎	4.7%
7.常盤平	20.0%
8.六実	4.7%
9.小金	7.9%
10.小金原	6.4%
11.新松戸	10.5%



F 6 . あなたの現在のご職業をお答えください。(1 つに)

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 . 会社員(27.8%) | 2 . 公務員 (教員、団体職員含む) (4.4%) |
| 3 . 自営業 (農業含む) (6.8%) | 4 . 臨時雇用 (パートなど) (10.9%) |
| 5 . その他の職業(4.8%) | 6 . 学生(4.7%) |
| 7 . 収入のある職についていない(32.2%) | |

F 7 . あなたは、これからも松戸市に住み続けたいと思いますか。(1 つに)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 . そう思う(51.2%) | 2 . ある程度そう思う(23.0%) |
| 3 . どちらともいえない(10.6%) | 4 . あまり思わない(4.3%) |
| 5 . 全く思わない(1.1%) | 6 . わからない(2.6%) |

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒で 10月22日(木)までにご投函ください。

2. パンフレット

これからの松戸を考えるために！

合併や政令指定都市移行について



はじめに

地方分権の進展や人口減少・高齢化社会が到来し、社会構造が大きく変化する中、市町村は自らの判断と責任において、地域の実情に即した行財政運営を行えるよう求められています。

松戸市は東京に隣接する住宅都市、ベッドタウンとして発展してきたこともあり、昭和30年代から50年代にかけて人口が急増しました。今後は人口急増期に移り住んできた人々の多くが高齢化を迎えます。一方で、働き手となる現役世代が減少し続けることから、今よりも少ない人数で高齢世代を支えることとなります。

こうした状況下において、松戸市では、市民の皆様にとって住みよい・魅力あふれるまちづくりを進めるために、将来のひとつの選択肢として、合併や政令指定都市への移行について調査・研究を行いました。

このパンフレットは、市民の皆様に市の現状と将来を考えていただくための素材として、これまでの調査研究の概要をまとめたものです。

編集・発行

松戸市 総務企画本部 政策調整課

TEL 047-366-7072

FAX 047-366-1204

Email mcseisaku@city.matsudo.chiba.jp

1. 合併や政令指定都市などについて（その1）

①「地方分権」や「平成の大合併」とは？

明治期より日本では国が主導でまちづくりを進めてきましたが、地域の課題が多様化する中では、地域住民に一番近い立場の市町村が自らの判断と責任でまちづくりを行うことが求められています。それにはこれまで国や県が担っていた地域の仕事を、市町村でも行うことができるような体制づくりが必要です。このことを「地方分権」といいます。

しかし、地方分権が進むことで市町村の役割が多くなり、小規模の市町村では単独で自治体運営を行うことが難しい問題もあります。そうした市町村では、近くの同じ課題を抱える市町村と合併することで、財政基盤を強化するなど、将来的にも住民サービスを維持する方策を検討する必要性が生じています。

国は地方分権を進めるために、平成11年から合併することでの財政的な支援を一定期間設けて、市町村の合併を促した結果、全国で多くの市町村が合併しました。このことを「平成の大合併」と総称しています。地域によって合併の進み具合には違いはありますが、「平成の大合併」で全国の市町村の数は、約半分に減少する予定です。日本では過去にも多くの合併が行われており、下の表のように「明治の大合併」、「昭和の大合併」によって市町村数は減少し、より大きな単位の市町村が形成されるようになりました。

	明治の大合併		昭和の大合併		平成の大合併	
	明治21年	明治22年	昭和28年	昭和36年	平成11年	平成22年
市町村数	71,314	15,859	9,868	3,472	3,229	1,758※予定

②「道州制」とは？

地方分権の改革が進む中、「道州制」の議論も活発になっています。

道州制とは、現在の都道府県制度を廃止して、複数の都道府県をベースに統合した面積規模を持つ広域的な行政体をつくり、自立のための権限を与える制度です。この一つの広域的な行政体を「道・州」と呼ぶことから、この制度が道州制と呼ばれています。

現状と大きく異なるのは、日本は「中央政府」という、一つの政府による全国一律的な進め方をしてきましたが、道州制になると道・州を単位として「地方政府」が管轄し、その地域に合った進めかたが可能になります。道・州の首長は地方政府の長となるので、現在の県知事権限を大きく越えるものとなります。そのため、州法や州税など住む地域によって住民にとっては大きな違いを生むものが出てくることも予想されます。

現在示されている区割り（案）は下記のとおり9、11、13道州の3パターンがあり、千葉県はいずれも南関東となっています。東京については、さまざまな意見があり、民間の研究機関などでは、南関東の州都にする、23区の一部をアメリカのワシントンDCのような特別区域にするなどの案も出ています。

区割り（案） 第28次地方制度調査会 平成18年2月

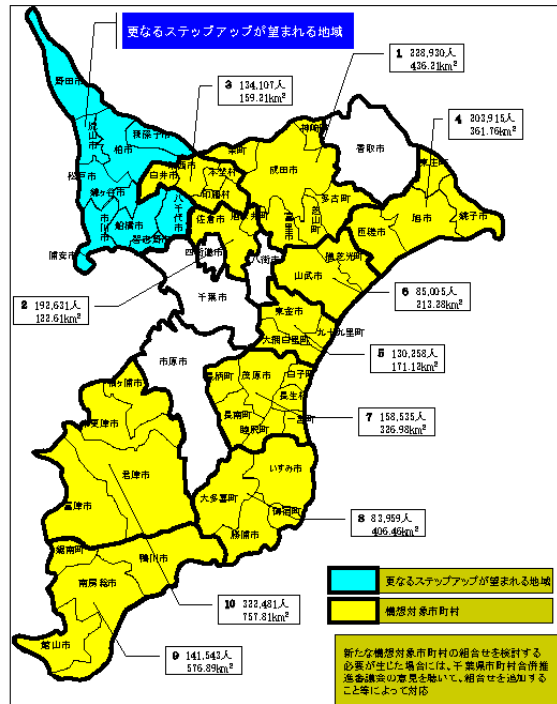


1. 合併や政令指定都市などについて（その2）

③千葉県「市町村合併推進構想」とは？

平成 17 年の国の合併新法、いわゆる「平成の大合併・第2ステージ」を受けて千葉県は「市町村合併推進構想」を平成 18 年に策定しました。その中で松戸市を含む東葛飾・葛南地域（以下、本圏域）の11市は、「更なるステップアップが望まれる地域」（右図参照）に指定されました。各市の人口規模が10万人以上であることから、県内の他の地域とは異なり、具体的な合併の枠組みを決めず、広域的な連携や将来的に政令指定都市移行について、考えていく必要がある地域に指定されました。

千葉県市町村合併推進構想による地域指定の状況



④「政令指定都市」とは？

政令指定都市の位置及び沿革

- 昭和31年 大阪市、名古屋市、京都市、横浜市、神戸市が指定都市へ移行
- 昭和38年 北九州市が指定都市へ移行
- 昭和47年 札幌市、川崎市、福岡市が指定都市へ移行
- 昭和55年 広島市が指定都市へ移行
- 平成元年 仙台市が指定都市へ移行
- 平成4年 千葉市が指定都市へ移行
- 平成15年 さいたま市が指定都市へ移行
- 平成17年 静岡市が指定都市へ移行
- 平成18年 堺市が指定都市へ移行
- 平成19年 新潟市、浜松市が指定都市へ移行
- 平成21年 岡山市が指定都市へ移行



一言で「政令指定都市」といっても、最近移行した静岡市や岡山市のように人口70万人程度の市から、横浜市のように350万人を超える規模までさまざまですが、全国に18の政令指定都市があります。平成の大合併以降では、6つの新たな政令指定都市が誕生しています。来年には神奈川県相模原市が政令指定都市に移行する予定です。

大きな都市には人口や産業が集まるため、質的にも高度で多様な行政サービスが必要となります。そこで「地方自治法で大都市に関する特例」を設け、国が政令で指定した大都市には、行財政面で一般市とは違う取り扱いができるようにしています。

平成21年（2009年）4月1日現在

1. 合併や政令指定都市などについて（その3）

⑤政令指定都市になるには？

政令指定都市になるには、人口規模が大きな要件となっています。法律上は50万人以上ですが、実際には100万人以上が必要です。最近では、静岡市のように70万人程度で政令指定都市になれるようになっていました。人口以外には、他の政令指定都市と同じくらいの都市基盤整備状況や昼夜間人口比率などの拠点性の高さなどが求められています。

※都市基盤整備の状況：道路、下水道、都市公園などの整備の状況

※昼夜間人口比率：常住人口に対する昼間の人口の割合

⑥政令指定都市になるとどう変わるの？

- 一般国道や県道の管理、市立小中学校の教員の採用、児童相談所の設置などが市に任せられるようになり、県と同程度の権限を持つことになります。
- 財政上の特例により新たな財源が交付され、宝くじの販売もできるようになり、市の財政規模が拡大します。
- 市の中に「区」（行政区）が設置され、区役所が作られることになります。
- 全国的にも国際的にも市の認知度が高まります。

※国や県が行っていた事務を市が引き受けるため、政令指定都市に移行したからといって、すぐに目に見える効果があるものではないと思われます。国や県から自立して、市独自に自らの責任の下に行政運営を行うことができるので、事務手続きのスピード化や道路のまとめた整備など、市の考えで市民サービスを提供できることが効果と考えられます。

⑦合併や政令指定都市移行によって不便になったりしないの？

- 市役所が遠くなることによる利便性の低下
- 市民の経済的負担の増大、サービス水準の低下
- 地域の声が届きにくくなること
- 地域の連帯感や地域への愛着の薄れ
- 合併相手との財政状況の違いによる市民の負担の増加

※仮に合併が具体的になった場合、こうした事態が起きないように合併協議会において、住民の方々の意見を反映させながら、話し合いを行っていくことが必要となります。

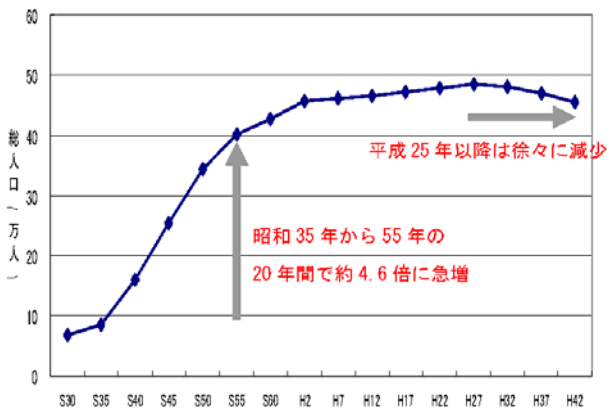
2. 松戸市の現状と将来の課題について

①松戸市の人口は将来どうなるの？

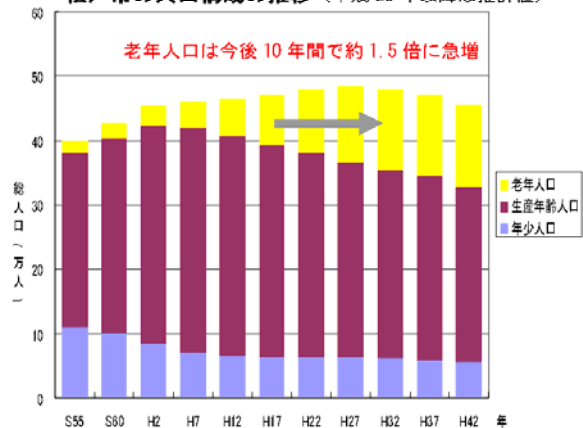
松戸市では、昭和30年代から50年代にかけて人口が急増し、20年間で4倍以上も増加しました。今後、人口は平成25年まで少し増加し、それ以降は減少傾向にあると推測されます。

人口構成は大きく変化し、65歳以上の老年人口はこれからの10年間で1.5倍に急増すると見込まれます。一方で、働き手となる15歳から64歳までの生産年齢人口は減り続け、14歳以下の年少人口も同時に減少する見込みです。増え続ける高齢世代を、今よりも少ない現役世代で、どのように支えていくかが大きな課題といえます。

松戸市の人口の推移（平成20年以降は推計値）



松戸市の人口構成の推移（平成20年以降は推計値）

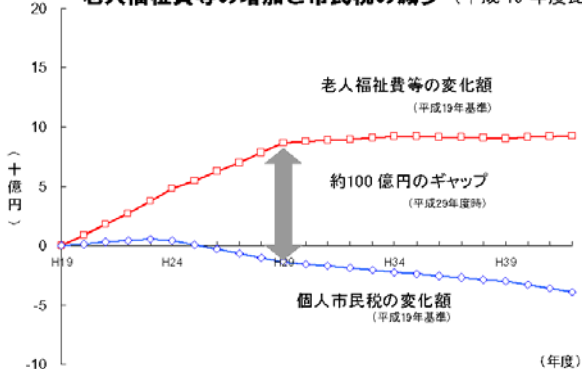


②松戸市の将来予想される大きな課題は？

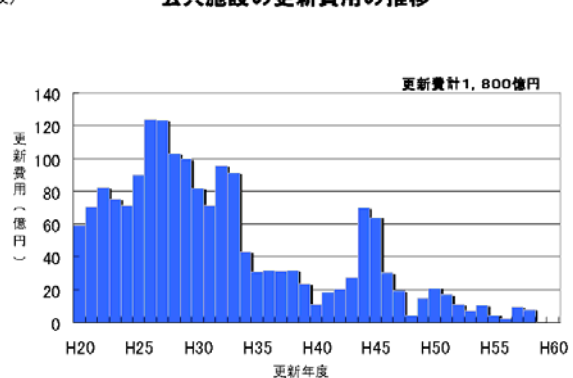
上の人口の推移から今後の財政状況を推計すると、老年人口の増加に伴い老人福祉費等が今後10年間で急増すると見込まれます。また、現在の松戸市の予算の約6割は市民の税金から構成されていますが、生産年齢人口の減少に伴い、個人市民税が平成25年以降減っていくと見込まれます。平成19年を基準とした老人福祉費等と個人市民税との変化額の差を見ると、今後10年間で約100億円の差が開くと推測され、市の財政に大きく影響すると予想されます。

また、松戸市では、昭和50年代にかけての人口急増期に学校等の多くの公共施設を建設しました。公共施設の耐用年数はおおよそ40年といわれており、今後施設の老朽化に伴い、建て替えや再編の時期を迎えます。全ての公共施設を建て替えた場合の総費用としては、今後40年間で約1,800億円かかると見込まれます。

老人福祉費等の増加と市民税の減少（平成19年度比較）



公共施設の更新費用の推移



3. 合併や政令指定都市移行に関する調査研究について

①なぜ、合併や政令指定都市について、調査研究をするの？

前頁の将来的な課題を踏まえ、市民の皆様にとって住みよい・魅力あふれるまちづくりを進めるためには、行財政基盤の抜本的な強化や効率的な行財政運営が必要となります。また、前述したとおり、千葉県の合併構想を受けて松戸市を含めた東葛飾・葛南地域は、将来的に政令指定都市移行について検討する必要性が生じています。このような背景から、松戸市では将来のひとつの選択肢として合併や政令指定都市移行について調査研究を行ってきました。

合併や政令指定都市に関する調査研究は単独で行うことが難しいため、以下の3つのモデルケースの任意の研究会によって、合併や政令指定都市移行の効果等の調査研究を行ってきました。

東葛広域行政連絡協議会 政令指定都市問題研究会	松戸市・柏市 政令指定都市研究会	東葛飾・葛南地域4市 政令指定都市研究会
人口 約140万人	人口 約88万人	人口 約166万人

②調査研究で何がわかったの？

➤ 政令指定都市に移行するには合併することが必要

松戸市単独の人口では政令指定都市になれないため、どこかの市と合併することが必要となります。

➤ 都市整備の状況や拠点性に弱み

既存の政令指定都市に比べ、都市基盤整備状況や昼夜間人口比率が低い結果となりました。

➤ 各市共通な将来の課題

本圏域は住宅都市として同時期に人口の急増を経て発展してきたこともあり、急速な老年人口の増加、公共施設の更新など、近い将来に各市が抱える課題は同様であることが分かりました。

➤ 合併しただけでは財政的な効果は薄い

合併によるスケールメリットを活かした行政機能の効率化を図ることは期待できますが、合併しただけ（中核市に留まる）では財政的な効果は薄い見込みとなりました。（※上記のモデルケースで合併した場合、柏市、船橋市が現在中核市のため、合併新市はまず中核市になります。）

➤ 政令指定都市移行の財政効果は見込める

合併して政令指定都市に移行する場合には新たな財源が見込め、財政的な効果が高いと推計されますが、道路関係の財源などは不確定な要素を含むので、引き続き情報収集が必要といえます。

➤ 合併・政令指定都市移行も将来の有効な選択肢

国の方針では平成の大合併は一区切りとなりましたが、研究結果からは合併や政令指定都市移行も、将来のひとつの有効な選択肢として考えられる結果となりました。

調査研究結果からは、松戸市の将来の選択肢は「合併しないで松戸市のままで行く」、「合併して政令指定都市を目指す」の大きくは2つに絞られると考えられますが、合併や政令指定都市移行に関する松戸市の未来を描く上では市民の皆様の意向が重要です。

松戸市 総務企画本部 政策調整課

〒271-8588 松戸市根本 387-5

TEL 047-366-7072

FAX 047-366-1204

E-mail mcseisaku@city.matsudo.chiba.jp